学習意欲を高めるための授業改善例

－高等学校編－

平成２２年３月

徳島県立総合教育センター

刊　行　に　あ　た　っ　て

平成２１年３月に告示された新しい高等学校学習指導要領は，改正された教育基本法，学校教育法の規定に従い，次の方針に基づき作成され，次代を担う子ども達のより充実した教育が求められることになりました。

① 教育基本法改正等で明確となった教育の理念を踏まえ「生きる力」を育成

② 知識・技能の習得と思考力・判断力・表現力等の育成のバランスを重視

③ 道徳教育や体育などの充実により，豊かな心や健やかな体を育成

さて，徳島県におきましては，平成２０年３月に策定した「徳島県学校改善支援プラン」を基に各高等学校の実態に沿った「高等学校版：『学力・学習状況』改善プラン」を作成していただき，学力向上推進員を中心に学力向上のための様々な取組をしていただいているところです。

このような中，徳島県立総合教育センターでは，学力向上推進員研修会や研究指定校の実践例の紹介などの学校への支援をしてまいりました。今後も「高等学校版：『学力・学習状況』改善プラン」に沿った取組をより一層推し進めていただくとともに，徳島県の高校生に見られる課題の解決に向けた授業改善の一助にしていただくため，「学習意欲を高めるための授業改善例」を作成いたしました。本冊子が各高等学校において幅広く活用されることを期待しております。また，各教科等の取組例につきまして，率直な御意見，御感想をいただければ幸いです。

最後になりましたが，本冊子の作成に御協力いただきました皆様方に対しまして，心よりお礼を申し上げます。

平成２２年３月

徳島県立総合教育センター
所　長　　多　田　　実

目次

Ⅰ　はじめに　・・・・・　1
Ⅱ　学習意欲を高めるための３つの視点　・・・・・　1
Ⅲ　学習意欲を高めるための授業改善例
（１）国語　・・・・・　3
（２）地理歴史　・・・・・　6
（３）公民　・・・・・　8
（４）数学　・・・・・　9
（５）理科　・・・・・１２
（６）保健体育（保健）　・・・・・１５
（７）芸術　・・・・・１６
（８）外国語　・・・・・１７
（９）家庭　・・・・・２１
(10)情報　・・・・・２４
(11)農業　・・・・・２５
(12)工業　・・・・・２６
(13)商業　・・・・・２７
(14)水産　・・・・・２８
(15)看護　・・・・・２９
(16)福祉　・・・・・３０
(17)総合的な学習の時間　・・・・・３１
(18)特別活動　・・・・・３４

編集委員　・・・・・３５
編集後記　・・・・・３６

Ⅰ　はじめに

平成１５年（２００３年）に行われた国際的な学力調査（ＰＩＳＡ，ＴＩＭＳＳ）から，日本の児童生徒の様々な課題が浮き彫りになり，日本の教育界に大きな衝撃を与えた。ここから明らかになった課題も含め，児童生徒がかかえる課題の解決に向け審議を続けてきた中央教育審議会の答申を踏まえ，平成２１年３月に高等学校学習指導要領が改訂された。この間，教育基本法，学校教育法が改正され，学校教育法において学力の重要な要素として，

①基礎的・基本的な知識・技能の習得
②知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等
③学習意欲

が示された。

徳島県の高校生に目を向けてみると，各学校から提出される「高等学校版：『学力・学習状況』改善プラン」における学習意欲や学習習慣に関する数値目標の達成状況が非常に低く，ここに大きな課題があることがわかった。

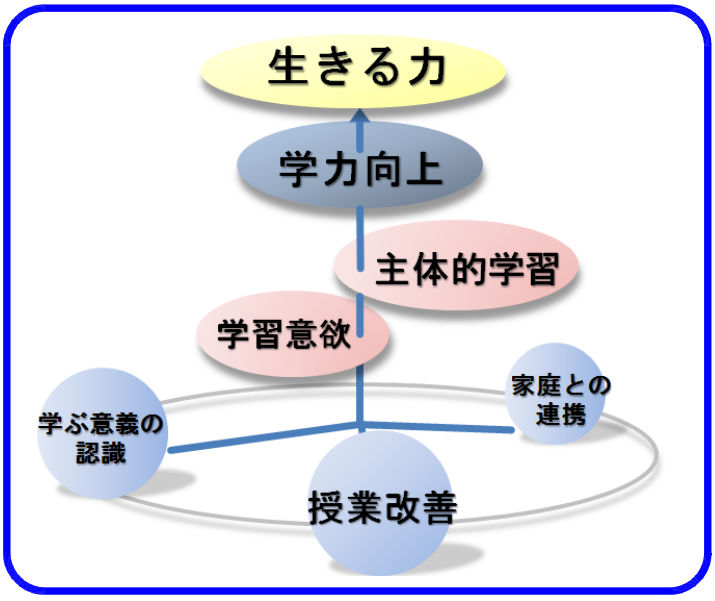
そこで，「学習意欲」を高めるための授業例を示すことによって，授業改善の一助としたい。

Ⅱ　学習意欲を高めるための３つの視点

１　学ぶ意義の認識
２　家庭との連携
３　授業改善

１　学ぶ意義の認識

学習意欲を高めるためには，授業時数を増やすことだけではなく，学ぶ意義を認識させることが必要である。学校での学習が自分の将来と関わっているということを理解させたり，「なぜ，学習する必要があるのか。」という素朴な疑問に対し，生徒たちが納得できる答えを提示したりすることは，不可欠である。また，学びを仕事に生かすことが自分の幸せにつながるということだけでなく，社会に貢献できるということを理解させるためには，キャリア教育の視点をもって授業を進めていくことが大切である。



２　家庭との連携

小・中・高等学校を通じ，学習習慣を確立することは極めて重要であり，家庭の協力は不可欠である。そのためには，保護者への説明会や三者面談等の機会を利用し，家庭との連携を図りながら，学校への協力や理解を得ることが大切である。その上で，宿題や予習・復習など家庭での学習課題を適切に課すなど家庭学習も視野に入れた指導を行う必要がある。特に，生徒が家庭において学習の見通しを立てて予習をしたり，学習した内容を振り返って復習したりする習慣の確立を図りたい。

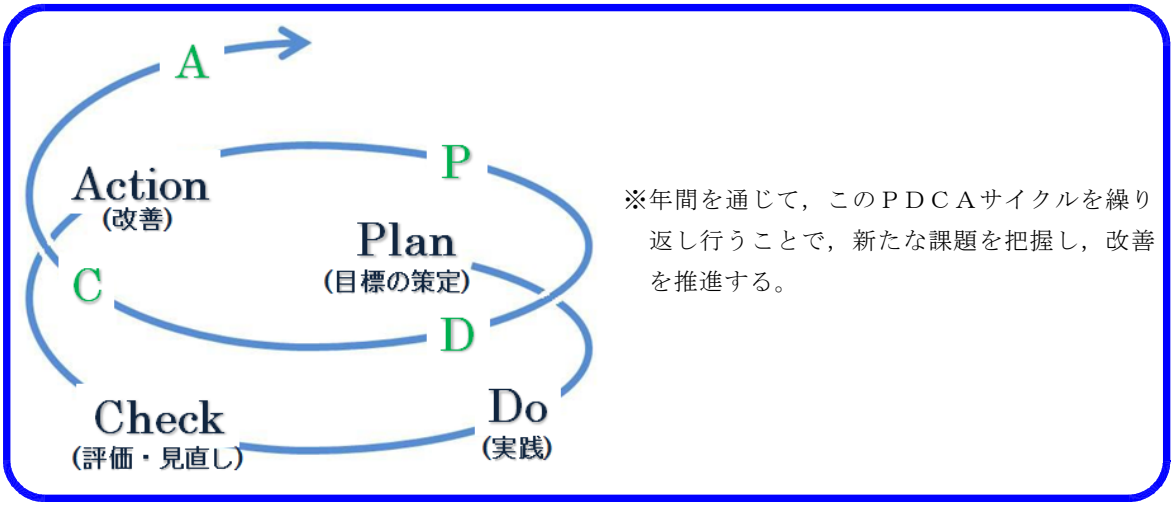
３ 授業改善

①授業改善の意義

「教師は授業が命である」と言っても過言ではない。生徒に「わかる授業」を展開することは，教師の使命である。「わかる授業」とは，難しい内容を安易な言葉で具体的に説明したり，問題等の正解を問うだけでなく，どうしてその答えに至ったのか，その過程の問いかけをするなどの工夫がなされているということである。そのためには，より深い教材研究が必要である。

授業は，生徒の実態に即して目標を設定し，それにともなう実践，評価，指導改善を行う，ＰＤＣＡサイクルに沿ってなされるものである。各種試験の結果，意識調査や面談等からの生徒の実態を踏まえ，現在求められている学力の育成に向けて，これまで培ってきた授業方法を振り返り，修正・改善することが必要である。つまり，生徒の実態把握に基づいた，ＰＤＣＡサイクルによる不断の授業改善が必要不可欠である。

特に各学校の実態に応じて作成された「高等学校版：『学力・学習状況』改善プラン」に沿って，生徒一人一人の習熟の程度に応じた取組を推進する際に，教師の授業改善及び生徒の学習状況の改善に積極的に取り組んでいくことが重要である。



※年間を通じて，このＰＤＣＡサイクルを繰り返し行うことで，新たな課題を把握し，改善を推進する。

②授業改善の方法

授業改善とは，従来の授業を大きく変えてしまうということではない。生徒の実態を十分に把握し，現在求められている学力に即した効果的な指導方法を，付け加えたり，軌道修正すべきところを明確にしたりして，これまでの取組のよい点や充実させるべき内容を見出していくことである。そのためには，学習評価のしかたが大切である。いわゆる評価のための評価に終わることなく，生徒一人一人の学習の成立を促すための評価という視点を一層重視することによって，教師が自らの指導を振り返り，指導の改善に生かしていくことが求められる。

また，教科等によって授業改善の視点がすべて異なると考えるべきではない。例えば，ＩＣＴを活用した授業や体験的な活動を取り入れた授業は，どのような教科等においても大切で，効果的である。このようなことを授業に取り入れる際，留意すべき事柄には各教科等に共通するものがあり，それぞれの教科等で単独に行うよりも，足並みをそろえて取り入れる方が効果的である。つまり，授業改善には，「みんなで，つづけて，とことん」実践することが必要である。

以上，学習意欲を高めるための３つの視点について示してきたが，それを実効あるものにするのは，人としての教師の姿勢である。生徒は，教師の教育にかける情熱，豊かな体験，人柄などに理屈抜きにひかれ，その教師の担当する教科に深い興味をもつものである。そうしたことが，授業への興味・関心，そして職業観へとつながっていき，生徒の人生観にも影響を及ぼしていく。このように，授業を通して生徒一人一人のよさを見つけ，個性を伸ばすことこそが教師のやりがいである。

Ⅲ　学習意欲を高めるための授業改善例

（１）　国語
～興味・関心を持たせる教材の活用～

授業改善のポイント

○ 視覚教材（動画）を使って，表現力，思考力を育成する。　取組例①
○ 身近にある新聞を使って，読む力をつける。　取組例②
○ web 小説などを使って，読む力，話す・聞く力を育成する。　取組例③
○ 音読を楽しみながら，読む力，表現力を育成する。　取組例④

取組例①

◇ 短編アニメーションを使って，思考力を育成する。

■　映像から情報を読み取り，想像力を働かせ，自分で考えて物語を構成し，表現する力を育成する。また，言葉のもつ力（情報，思考の伝達，思考を深め広げる手段，思考を規定する枠など）について問題意識を持たせ，考える視点を広げる。

【授業例】

○ DVD短編「つみきのいえ」を鑑賞し，物語を作成し発表をさせるとともに，ナレーションの有無による違いを比較し，言葉の持つ力について考えさせる。

① ナレーションのない映像をみて，物語を想像し構成させる。（グループ学習）
② 各グループで作成した物語を発表させる。
③ アニメーションでナレーションのついたものを見せる。
④ ナレーションの有・無による違いを整理し，どちらが，どういう点で良いのか考えまとめさせる。（グループ学習）
⑤ それぞれのグループより発表させる。（絵本「つみきのいえ」を読み聞かせる。）
⑥ 言葉の持つ力，映像の持つ力について考えさせる。

【発展例】　〈視点〉DVD を鑑賞して，さまざまな物語が出てきたということは，生徒がそこに作者の意図を離れて様々な可能性を見いだしたということ。そこから，読むことの楽しさについて考える学習，言語論・記号論の学習，構造主義の学習などへ発展させる。

例１　ロラン・バルトの文学論を概説する。→構造主義・記号論の学習
　文学作品は，作者によって支配されないものである。
　理由　・作者は自分が作ったのではない言語で書くわけだから，言語構造の制約を受ける。
　　・作者自身が読んできたものの影響から逃れられない。
　文学作品は，作者を離れた無限の読みの可能性をもつものであり，それをテクストと呼ぶ。文学テクストを規定するのは，テクストの構造である。（構造主義）
　人間の生活は様々な記号に取り巻かれているから，人間の文化全体をテクストとして読むことができる。（記号論）
例２　ジャック・ラカンの考え方を概説する。
　言語の持つ力　→言語によって秩序が与えられるときに，人間にとっての世界というものが出現する。よって，言語の構造から人間は離れられない。→言語という構造による規定。
例３　現代文教科書に載っている言語論を読ませる。
　池上嘉彦，鈴木孝夫など評論教材

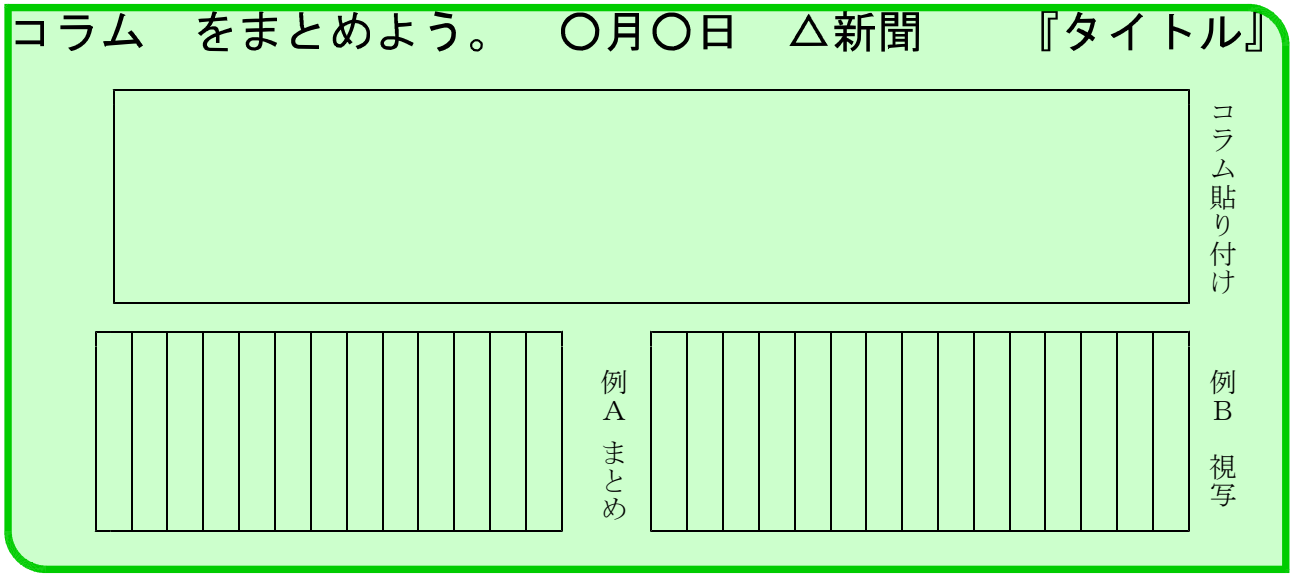
参考図書案内　○「構造主義」「ポスト構造主義」ナツメ社　○「１２歳からの現代思想」岡本祐一郎　著 ちくま新書　○「教養としての大学受験国語」石原千秋著 ちくま新書　○「寝ながら学べる構造主義」内田樹著　平凡社新書　○「はじめての構造主義」橋爪大三郎著　○「現代思想の冒険」竹田青嗣著　○「そうだったのか現代思想」　小坂修平著　○「高校生からわかる資本論」池上彰著　○「哲学のモノサシ」西研著　○「自分の中に歴史を読む」阿部謹也著 ちくま文庫

取組例②

◇ 新聞のコラムを使って，読む力をつける。

■　中学生・高校生の新聞閲読率の調査をオリコンが実施したところ，63.5 %が「普段新聞を読んでいる」と回答した。そこで，学習意欲を喚起するために，教材としてコラムを使って，読む力と要約力を育成する。

【授業例】



〈準備物〉　(1) 新聞のコラムのコピー　(2) 台紙またはノート　(3) 3 色ボールペン　(4) 辞書

〈指示手順〉　①～⑧

① 印刷物配布
② 音読
③ 精読

例Ａ　内容をまとめさせる場合

④　語句の意味調べ（辞書使用）
⑤　段落ごとに，「筆者の強調したいところ」に青線を引かせる。
⑥　その中でも最も大切だと思うところに赤線を引かせる。
⑦　傍線部をつないでまとめさせる。(字数を指定してもよい。)
⑧　評価　・自己評価←見本を参照
　　・相互評価←グループ

例Ｂ　視写させる場合

④　語句の説明をする
⑤　生徒に視写させる。
⑥　もう一度，音読させる。
⑦　重要箇所に傍線を引くように指示する。
◆　傍線の工夫例。
赤・・重要と思うところ。
青・・感動したところ。
緑・・筆者の主張。

※注意点　・内容の難易度，時宜にあったもの，生徒の学力や興味などをよく考えて選ぶこと。
・教師が評価をすること。ただし，生徒に評価の観点や規準を示すこと。
・はじめから失敗体験をさせないこと。（継続できるように配慮する。）

【参考 HP】　新聞コラム社説リンク集（ http://www.ne.jp/asahi/sec/eto/NewsPaperLink.html ）

取組例③

◇ web を使って読む機会を増やし，読書量を増加させ，発表によって話す力を育てる。

■　読書離れといわれるが，携帯小説や web 小説は読まれている。web 小説などから，読む機会を増やし，互いに紹介させることで話す力を育成する。

【授業例】　自分の気に入った小説（物語）を紹介しながら，web の持つ問題にも目を向けさせる。

① グループ分けをする。　（紹介するのは web 小説，本どちらでも良いことを指示）
② グループで計画し，ＣＡＩ教室，図書室などを利用し，おもしろい小説を探す。
③ グループ内で話し合い，各自の紹介カードを作成する。
④ グループごとに発表（掲示）させる。
⑤ （投票により，読んでみたいものを作成し掲示してもよい。）
⑥ 次の点を考えさせる。
・ 読み比べて，web 小説と本を比較し，その特徴を考える。
・ web 利用上の注意点にも考えを向けさせる。
（著作権の問題，信用性の問題，架空請求などの危険性など）

【参照 HP】　「 ちくま web 」　http://www.chikumashobo.co.jp/new_chikuma/
「角川学芸 WEB マガジン」　http://www.kadokawagakugei.com/magazine/
「NHK 出版　WEB マガジン」　http://www.nhk-book.co.jp/magazine/

取組例④

◇ 読む力（話す力）を，音読をとおして身に付けさせる。

■　自分の話が相手に伝わらない。相手の言ってることがわからないのはなぜか。話す力ばかりでなく，聞く力が低下しているともいわれるが，まずは，人に聞いてもらうためにはどのような工夫が必要か考えさせ，基本的な訓練によって身に付けるようにしたい。

【授業例】　発声から始まり，人に聞いてもらうための声に出して読む力や話す力を向上させる。

1 導入 ①　良い声ってどんな声？------［聞き手が心地よい，聞きやすいと感じる声］
②　自分の声を知る。　------　録音して聞いてみる。
2 リラックスの指導 ------ 顔のマッサージ，体をほぐす。
3 腹式呼吸と発声の説明と指導
①　正しい姿勢と呼吸練習。
②　共鳴を意識したロングトーンの発声で喉が自然に開く状態を作る。
ア　「ン-----」とハミングし，その音を鼻に当てる。
イ　鼻がむずむずしてきたらその共鳴を顔面全体に広げる意識で「ン----」から「ア----」へと音をうつしていき，長く声を出す。
4　実践トレーニング　①　小説の場面を朗読してみる。
②　早口言葉をグループで練習してみる。（滑舌）

【発展】 映像と結びつけて，ナレーションを作る。（CM 作成など）

【参考文献】「初めてのボイストレーニング」朗読・ナレーション編　雷鳥社
「朗読ナレーショントレーニング」　雷鳥社

（注）著作権については，著作権法 35 条第 1 項において，授業の過程における使用（複製）は例外として認められています。

（２） 地理歴史
～生徒の関心を地理や歴史に向けさせる～

授業改善のポイント

○ 世界遺産を題材にして，歴史に興味をもたせ，表現力を育成する。 取組例①
○ 通学圏・生活圏に関心をもたせ，略地図を作成する力を身に付けさせる。 取組例②
○ 生徒自身に関係する事項を調べ発表させることによって，学習意欲を高める。 取組例③
○ 郷土の観光検定等の問題を活用し，身近な自然や歴史，文化に関心をもたせる。 取組例④

取組例①

◇ 授業内容と関連する世界遺産について，紹介記事を作成させる。（世界史・日本史）

1　世界遺産が取り扱われている単元において，授業の展開場面の一部を使って(25分程度)，その世界遺産についての紹介記事を作成させる。

2　世界遺産に関する複数の資料と右のようなワークシートを配付する。

3　生徒は，個別(またはグループ)で，複数の資料を読み，いつ・どこで・誰が・何を・なぜ・特徴(驚異的なこと)の６つの視点でまとめ，紹介記事を書く。

例：秦の統一(授業50分間の流れ)

秦・始皇帝の知識確認 導入5分 ⇨ 中央集権 政治の学習 展開 17 分 ⇨ 兵馬俑の記事作成 展開 25 分 ⇨ 課題：なぜ秦は滅んだか？ まとめ3分

【例】

単元：中国の古典文明
世界遺産 No.○○　　組　氏名

秦の始皇帝の兵馬俑

●資料の読み取り

いつ	
どこで	
誰が	
何を	
なぜ（目的）	
特徴（驚異）	

●紹介記事(インパクトのある見出しをつける)

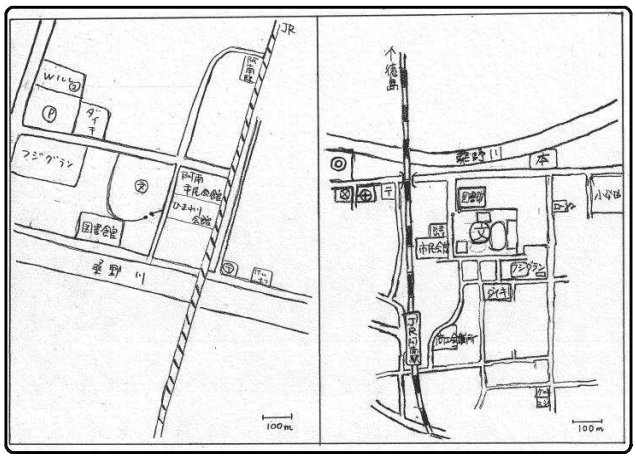
図版貼付欄　　**見出し**

取組例②

◇ 学校周辺の地理について，生徒個々のメンタルマップをもとに，グループでより正確な地図を作成させる。（地理）

【第１次】
(1) 生徒にＢ５用紙１枚(縮尺だけを書いたもの)を配付し，何も見ずに学校周辺の地図(メンタルマップ)を描かせる。
(2) ４人グループをつくり，グループごとにメンタルマップを作成させる。完成作品は，次時まで教室に掲示する。

【第２次】
(1) 市販の地図などを参考にさせたうえで，他グループの作品についての感想を発表させる。
(2) 各グループで地図をさらに修正させる。（地図作成ソフトがある場合は，次時にパソコンで地図を作成させる。）



〈生徒Ａのメンタルマップ〉 ⟶〈グループ作成のメンタルマップ〉

取組例③

◇ 自分の誕生日におきた出来事の一つを取り上げて，教科書で調べさせ，「この日に歴史は動いた！」というテーマで，５分間の発表をさせる。（世界史・日本史）

1　自分の誕生日におこった出来事についての年表を作成させる（ｲﾝﾀｰﾈｯﾄで検索）。

2　その中で，教科書で扱われている出来事（用語）を一つピックアップさせ，教科書で調べさせる。

3　５月上旬までに提出させ，内容と関連した単元学習時に，５分間で発表させる。

４月６日（私の誕生日）におこったできごと

前46年　カエサルがタプススの戦いで元老院派の軍を破る
1320年　スコットランドでアーブロース宣言を採択しイングランドから独立する
1534年　勢場ヶ原の戦いがおこる（大内・大友間で交戦）
1789年　ジョージ・ワシントンがアメリカ合衆国初代大統領に選出される
1830年　末日聖徒イエス・キリスト教会（一般にはモルモン教会）が創設される
1862年　南北戦争のシャイローの戦いが行われる
1868年　五箇条の御誓文が発布される
1882年　岐阜事件で板垣退助（自由党党首）が遊説中に暴漢に襲われる
1896年　第１回近代オリンピック（アテネオリンピック）が開催される
1909年　アメリカ人探検家ピアリーが北極点に到達する
1917年　第一次世界大戦でアメリカ合衆国がドイツに対して宣戦布告する
1919年　ガンディーにより第１次非暴力・不服従運動が開始される
1933年　中国国民政府が廃両改元を行い，銀元を導入する
1941年　第二次世界大戦でドイツがギリシャ・ユーゴスラビアに侵攻する

4　家族の誕生日も調べさせる。

この日に歴史は動いた！　1882年４月６日

板垣退助（1837～1919）

1869　土佐藩出身で明治政府（**藩閥政府**）の参与となる
1873　**征韓論**を唱えたが，反対にあい下野する（**明治六年の政変**）
1874　愛国公党を設立し，**民撰議院設立の建白書**を左院に提出する
　　（**自由民権運動**の口火となる）
1875　明治政府に一時復帰し，大阪会議に参加する
1881　**自由党**を結成し党首となる
1882　遊説中に暴漢に襲われる（岐阜事件）
　　「板垣死すとも自由は死せず」の名言をのこす
　　三井からの費用を使い洋行する
1898　第１次大隈内閣（**隈板内閣**）の内務大臣となる

取組例④

◇　授業中の10分間を使って，郷土の観光検定等の問題について考えさせる。（地理・日本史）

1　郷土の自然や歴史，文化を扱った観光検定等で出題された問題に取り組ませる。

2　授業のまとめの後の10分間を使って，毎時間１問ずつ，生徒に考えさせた後，それぞれの選択肢の用語について，教師が地図を使って解説を加えたり，生徒に宿題として調べて来させたりする。

3　教室に掲示した白地図や年表にその内容を記入させていく。

1.　徳島には，16 世紀の蜂須賀家政入国をきっかけに栄えた文化が数々あるが，ときの藩主蜂須賀治昭以降に発展したのは，つぎのうちどれか。
ア. 阿波おどり　イ. 阿波和紙　ウ. 阿波人形浄瑠璃　エ. 大谷焼
28.　つぎの徳島県の郷土料理のうち，祖谷地方の名物料理ではないものはどれか。
ア. たらいうどん　イ. そば米雑炊　ウ. でこまわし　エ. ひらら焼き
33.　つぎの説明文にあてはまるものを選びなさい。
《説明文》徳島県南東部の海岸で，アカウミガメの産卵地としてよく知られている。「ウミガメ博物館カレッタ」があり，毎年７月中旬の「うみがめ祭り」では，子ガメの放流がおこなわれている。
ア. 蒲生田岬　イ. 田井ノ浜海水浴場　ウ. 大浜海岸　エ. 千羽海岸

（「四国観光検定」より）

（３） 公　　民
～生徒の実践的活動を取り入れた授業づくり～

授業改善のポイント

○ ロールプレイングを通して，司法制度の概要を具体的に理解させる。 取組例①
○ 体験的学習を取り入れて，消費者問題に対する見方や考え方を深めさせる。 取組例②

取組例①

◇ ロールプレイングを通して，刑事裁判及び裁判員制度の仕組みと意義を理解させる。

1　裁判のロールプレイングを通して，司法や裁判員制度について関心を高める。

・20分程度の模擬裁判シナリオを利用する。
・裁判官役・検察官役・弁護人役・被告人役・証人役を一人ずつ生徒から選び，シナリオに基づいて役割演技を行わせる。
・その他の生徒は，全員が裁判員役になる。

2　証拠の整理や他者との討論から事象を多面的・多角的に考察し，総合化して公正に判断する。

・有罪に結びつく証拠，有罪でないことに結びつく証拠をシナリオの事実から自分なりに考えて抽出する。
・班での討議など，多数人で情報を共有する作業を通じて，多様な認識・意見があることを理解する。

3　個々の事実を正確に把握し，それに基づいて自分の考えを適切に表現する。

・多面的・多角的な見方を知った上で，自分なりに証拠に基づいた事実を把握する。
・班での討議などにより，自己の意見を述べ，他者の意見を聴き，一応の結論を出す作業を経験する。

4　刑事裁判及び裁判員制度の仕組みと意義について理解する。

・刑事裁判及び裁判員制度の仕組みと意義などを，１～３の作業を通じて理解する。
・裁判員制度については，国民が裁判に参加することの意義を中心に理解し，生徒の討議，感想，意見などから，理解度を確かめる。

＊ 模擬裁判シナリオ（例）は，法務省ホームページ（http://www.moj.go.jp/SAIBANIN/pdf/kyozai-kosei08.pdf）参照

取組例②

◇ 体験的学習を取り入れて，契約に関する基本的な考え方を深めさせる。

1　契約とは，どのような行為を言うのか考えてみる。
2　売買契約書を書いてみる。
　　二人一組となって，物の売り買いをし，売買契約書を書いてみる。例えば，「この時計を○円で売買します」という場合，売るとき，買うときの条件を売買契約書の条件欄に書く。
3　契約が成立するとはどのようなことか，契約の原則を確認する。

契約とは，どのような行為を言うのか考えてみよう。

1　次の場合，契約が結ばれたと言えるだろうか。
　①　携帯でピザを注文する。
　②　本を予約する。
　③　電車に乗るため切符を買う。

2　契約が成立するのは，次のどの時点だと思いますか。
　①　契約書に印鑑を押したとき，サインをしたとき。
　②　双方が，「売る」「買う」と合意したとき。
　③　売買することが明記された日付けから。

売　買　契　約　書

＊この契約は，あくまで授業のための架空の契約であり，実際の効力はない。

売り主 ＿＿＿＿＿＿ と
買い主 ＿＿＿＿＿＿ は，
売り主が所有する ＿＿＿＿＿＿ について，以下に定める売買条件で売買契約を結んだ。

売買する品物の説明	売買条件
＿＿＿＿＿＿	＿＿＿＿＿＿
＿＿＿＿＿＿	＿＿＿＿＿＿
＿＿＿＿＿＿	＿＿＿＿＿＿

年　月　日　　売り主　年　組　番　　印
　　買い主　年　組　番　　印

【参考ホームページ】　法務省 大臣官房 司法法制部
法教育推進協議会（http://www.moj.go.jp/KANBOU/HOUKYO/houkoku02-03.pdf）

（４） 数学
～数学のよさを実感できる授業づくり～

授業改善のポイント

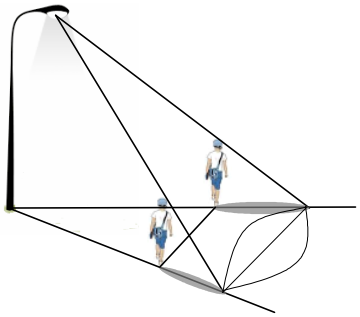
○ 日常生活の身近な事象や生徒が疑問に思うことを課題として設定する。 取組例①
○ 自分の考えを数学的に表現して説明したり，議論したりする場面を取り入れる。 取組例②
○ コンピュータや情報通信ネットワークを積極的に活用する。 取組例③

取組例①

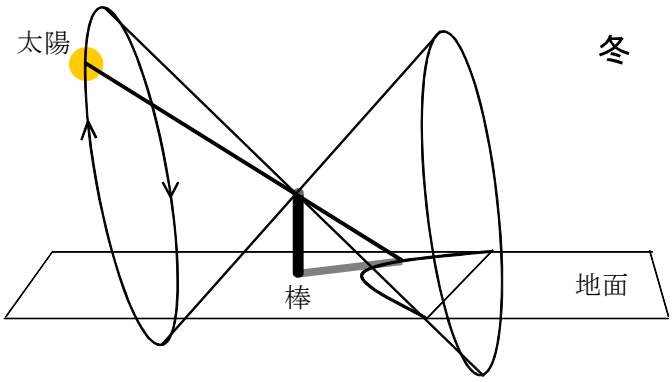
◇ 地面に立てた棒の影の先端が描く軌跡について考える。

【学習のねらい】
物体の太陽からの影がどのような曲線を描くかを予想し，実際に実験結果で確かめる。また，その結果について考察することを通して，数学への関心や意欲を高め，生徒の主体的な学習を促す。

【具体的な学習活動】…班別学習



1　街灯の下をまっすぐ歩く人の影の先端が描く軌跡について考える。
・中学校の図形の知識を復習することで，軌跡が直線になることを理解する。
2　地面に垂直に立てた棒の影の先端が，太陽の移動に伴ってどのような軌跡を描くかを予想する。
・１の条件を変えて，光源(太陽)が動き物体(棒)が静止した場合にどのようになるか予想させる。
3　校庭に立てた棒の影を１時間毎に撮影した結果を見せる。
・机の上に立てた鉛筆の先端の影の位置を記録させてみてもよい。
4　軌跡が直線にならない理由を各班で考え，発表する。
・必ず根拠を示して説明させる。
5　３で示した撮影結果に双曲線を重ね合わせ結果が正しいことを確認する。



【指導方法の工夫改善】
1　円錐曲線を日常生活と関連づけて考えさせる。
2　根拠を明らかにして結果を予想させる。
3　各班の発表に対して質問等を行わせ理解を深める。
4　軌跡が双曲線になることを必ず実験や映像によって確かめる。

【参考資料】教育映像「日常にひそむ数理曲線」
（慶應義塾大学 佐藤雅彦研究室，ベネッセ教育研究開発センター）

取組例②

◇ 三角関数の加法定理をさまざまな方法で導き出し生徒に説明させる。また，それぞれの方法の良い点・問題点について議論を行う。

【学習のねらい】

多くの生徒は，定理等の証明は教科書に載っている１通りしかないと思い込んでいる。しかし，定理によってはさまざまな証明方法があり，それぞれ良い点と問題点がある。生徒にいくつかの証明に取り組ませ，その方法を発表し，さらに互いの証明方法について比較検討させることで証明への理解を深めさせる。一般に，問題解決の道筋は１つではなくさまざまなアプローチがある。人に説明したり，互いに議論したりすることが，最も良い方法にたどり着くうえで有効な手段であることを気づかせることで，数学を学習する意欲を高め，生徒の主体的な学習を促す。

【具体的な学習活動】

１　正弦の加法定理　$\sin(\alpha+\beta)=\sin\alpha\cos\beta+\cos\alpha\sin\beta$　の証明について考える。

２　班別学習

・図１を用いた証明
・図２を用いた証明
・図３を用いた証明
を各班に分かれて考える。

３　班の代表者が各班で考えた証明方法を発表する。

４　それぞれの証明方法の良い点・問題点について話し合う。

５　余弦の加法定理　$\cos(\alpha+\beta)=\cos\alpha\cos\beta-\sin\alpha\sin\beta$
の証明に応用できないか考える。

図１

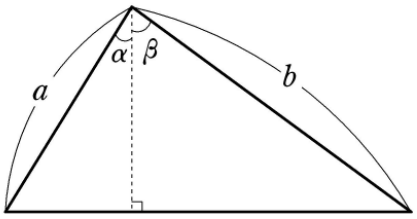


図２

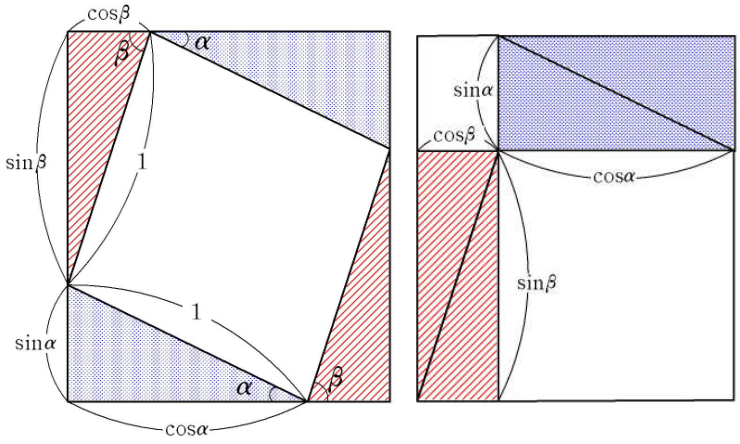
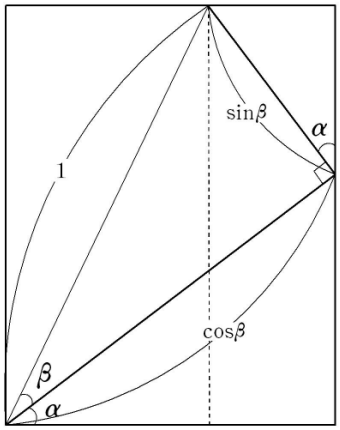


図３



【指導方法の工夫改善】

１　生徒に証明方法を説明させるとき，他の生徒にわかるようにていねいに説明させる。
２　質問等の時間を必ず設け，相手に理解してもらえたか確認させる。
３　それぞれの証明にα，βの大きさ等に制限がないかなど検討させる。
４　ヒントを与えるなどして，他の証明方法がないか考えさせる。
５　余弦の加法定理の証明の応用へと発展させて考えを深めさせる。

【参考資料】「証明の展覧会」（ロジャー・Ｂ・ネルソン：東海大学出版会）

取組例③

◇ 生徒にとってわかりにくい「軌跡」の問題をコンピュータを利用して理解させる。

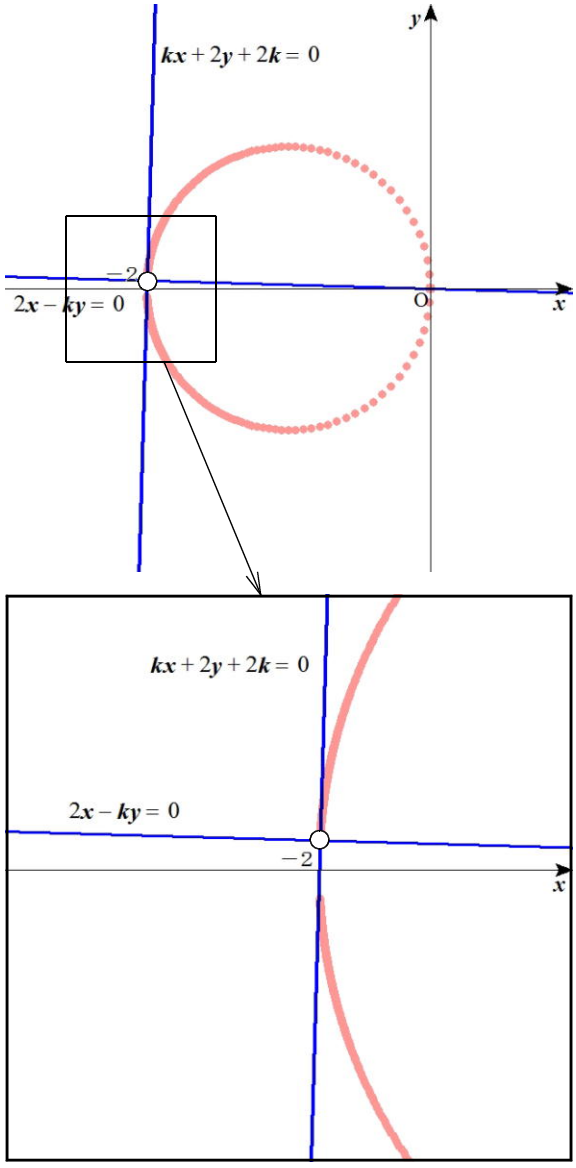
【学習のねらい】

数学Ⅱにおける「軌跡」は生徒にとってわかりにくい分野の１つである。特に２直線の交点の軌跡における除外点の存在は生徒にとって最も理解しにくいものである。コンピュータがなかった頃は，除外点を数式で求めるのみで，納得がいく理解をさせるのが難しかった。ここでは，コンピュータを利用して，実際に軌跡を見せることで，なぜ除外点が存在するのかを理解させる。

【問題】２直線 $kx+2y+2k=0$，$2x-ky=0$ がある。k の値が変化するとき，この２直線の交点の軌跡を求めよ。

【具体的な学習活動】

1　【問題】の軌跡について考える。
2　$(x+1)^2+y^2=1$　を求める。
3　関数グラフソフト(grapes)を用いて，軌跡を描く。
4　k の値をいろいろ変化させても，点(－２，０)を描かない理由について考える。
5　式で(－２，０)が除外点になることを求める。
6　点(－２，０)付近を拡大したグラフを用いて(－２，０)が除外点になることを視覚的に理解させる。



【指導方法の工夫改善】

1　$(x+1)^2+y^2=1$　までは各自で求めさせる。
2　grapes を用いて，実際に交点の軌跡を描画させる。
3　k をいろいろ変化させても２直線の交点の軌跡が点(－２，０)にならないことに気づかせる。
4　点(－２，０)を除外しなければならない理由を数式で理解させる。
5　除外点の存在を，コンピュータを用いて視覚的に理解させる。

（５） 理科
～知的好奇心を高める授業づくり～

授業改善のポイント

○ ＩＣＴ等を活用する。 取組例①
○ 最先端の知識や技能を学習する。 取組例②
○ 実験，実習を積極的に取り入れる。 取組例③
○ 授業にゲームを取り入れる。 取組例④
○ 自主学習用デジタル教材を授業に取り入れる。 取組例⑤
○ 課題解決型の個別実験を行う。 取組例⑥

取組例①

◇ 導入時に，デジタル教材や演示実験を取り入れる。

■ 授業における導入は，本時の目標を明確にするだけでなく，生徒の内発的な学習意欲を喚起する重要な時間である。

・理科ネットワークなどデジタル教材を日々の授業に取り入れる。
・演示実験や実物を積極的に授業に取り入れる。
（聞くだけより見たり触ったりすることで実感をともなった理解ができる。）

【理科ネットワーク】http://www.rikanet.jst.go.jp/

取組例②

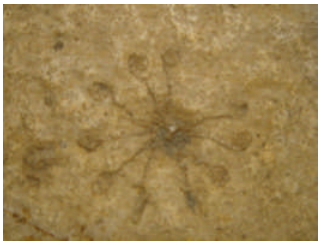
◇ ＳＰＰ（サイエンス・パートナーシップ・プロジェクト）等を活用し，大学と連携した活動を取り入れる。

【平成２１年度 ＳＰＰ事業の一部】
１ 徳島大学疾患ゲノム研究センター
「高校生のための遺伝子組換え実験講習会」
講 義：遺伝子組換えの基礎知識
実習１：大腸菌の形質転換
実習２：ヒトゲノムの多型
実習３：ＧＦＰ導入細胞の観察
参加校：城東，城ノ内，徳島北，城西，海部
２ 徳島大学工学部との講座型学習活動
参加校：那賀，海部，阿波西，辻，池田
【事業概要，応募・実施の手続き】 http://spp.jst.go.jp/

取組例③

◇ 屋内で地質観察を行う。

■　理科において，実験，実習が重要なことは言うまでもない。実験，実習を行うことで次のような効果が期待できる。
・体験的な学習を通して，知的好奇心を高めることができる。
・知識・技能の確実な定着，思考力・表現力を育成できる。
・実感を伴った理解を図ることができる。
・学習内容と日常生活との関連を図りやすい。
しかし，野外での実習，観察には，天候に左右されることや時間的制約など課題もある。
　ここでは，屋内で地質観察が行える地点を紹介する。


サッココマ
（サンビ堂）

【化石編】
　地点１：浮遊性ウミユリサッココマの化石（サンビ堂，籠屋町）
　地点２：貨幣石の化石（阿波銀プラザ，東新町）
　地点３：ウミユリ，腕足類の化石（徳島駅内の壁面）
　地点４：ウミユリの化石（そごう徳島店内）
　地点５：アンモナイト，ベレムナイトの化石
　　（ホテルクレメント，寺島本町）
　地点６：アンモナイトの化石（道の駅 貞光ゆうゆう館）
※学校内の岩石にも化石が含まれている可能性があるので，捜してみよう。

アンモナイト
（ホテルクレメント）

【岩石編】
　地点１：眼球状圧砕花崗岩（ハラダ，東新町）
　地点２：ラルビカイト（ホテルグランドパレス，寺島本町）

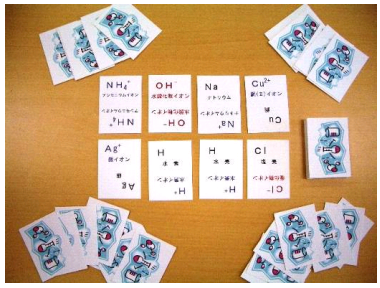
アンモナイト
（貞光ゆうゆう館）

【注意点】
・実際に見学を行う場合は，事前に見学場所に連絡をしておくこと。
・お客さんの迷惑にならないように観察すること。
【参考】徳島県立博物館　野外自然観察テキスト

取組例④

◇ 簡単なカードゲームを取り入れ，化学式などを楽しみながら覚える。

【学習のねらい】
　化学を学習する上で，化学式は欠かすことができない。しかし，化学式を覚えるのが苦手な生徒も多く，化学の学習においてのつまずきの１つである。そこで，カードゲームを取り入れて，**楽しく化学式を覚える**ことができる。
【教材の概要】
　元素記号やイオン式を書いたカードを使い，手持ちカードと場のカードを組み合わせ（花札のルールに似ている）組成式や分子式を完成させていく。組成式や分子式，それぞれに得点が決められており，組み合わせることができた化学式の合計点で勝敗を決める。
【参考】
　徳島県立総合教育センター HP「教材コンテンツ」
　栃木県総合教育センター HP「教師のための教材研究の広場」


イオン・原子カードゲーム

取組例⑤

◇ 基本的な問題をデータベース化しておき，クイズ形式問題のデジタルコンテンツ作成し，生徒の自主学習を手助けする。

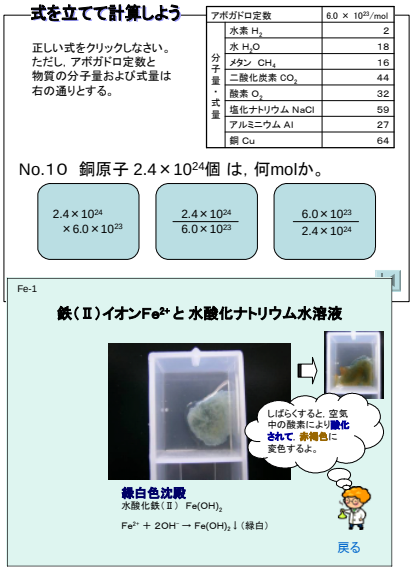
【学習のねらいおよび教材の概要】

コンテンツ１　物質量計算の基本

物質量に関する計算問題を取り入れたコンテンツである。ここでは，単に答えを求めさせるのではなく，値を求めるための**式を考えること**を中心とした問題とすることにより，しっかりとした計算力を身につけることができる。

コンテンツ２　金属イオンの反応

金属イオンの沈殿反応の問題を取り入れたコンテンツである。ここでは，単に沈殿反応を語句や化学式で確認するだけでなく，実際の実験の様子を**写真で見る**こともでき，より印象深く記憶に残るように工夫されている。また，問題レベルも３段階に分かれており，**自分のレベル**に合わせて学習できるようにしている。



【参考】

徳島県立総合教育センター HP「教材コンテンツ」

平成20年度　長期研究員　研究報告書（第５５集）　松永英明，徳島県立総合教育センター

取組例⑥

◇ 個別または少人数で実験（マイクロスケール実験）を行い，得られた実験結果をもとに，ある課題を解決していく。

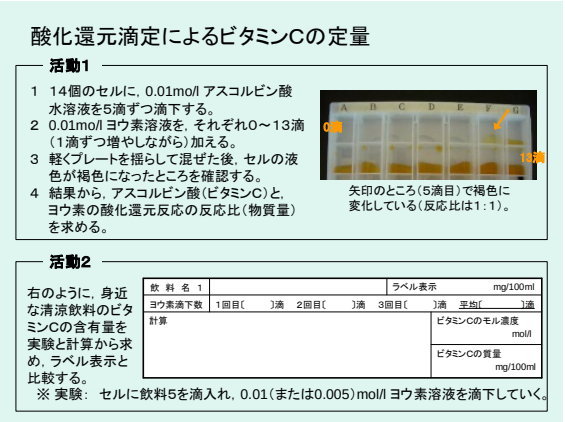
【学習のねらい】

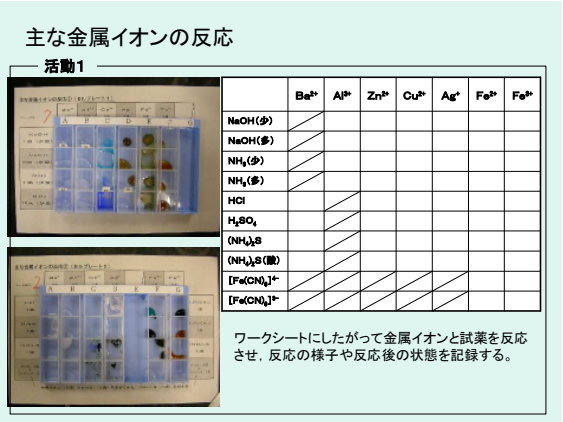
科学的な思考力は，仮説－計画－実験－結果－結論という一連の活動，たとえば，「探究活動」や「課題研究」の実践を通じてはじめて身に付くものである。そこで，マイクロスケール実験を導入することにより，個別または少人数での実験かつ短時間での実験を可能にした。

【教材の概要】

点眼びんやセルプレートなどを用いて，少量の薬品で実験を行う。酸化還元滴定を用いた清涼飲料水中のビタミンＣの定量，様々な化学反応を駆使して，官能基の決定や水溶液中の金属イオンの決定などを行う実験が考えられる。

いずれの場合も，基本的な実験を行い，その結果を用いて，未知試料を調べていく内容になっている。





【参考】

徳島県立総合教育センター HP「デジタルコンテンツ」

平成20年度　長期研究員　研究報告書（第５５集）　松永英明，徳島県立総合教育センター

萩野和子（編），『マイクロスケール実験』，日本化学会，2003

（６） 保健体育（保健）
～生徒の活動を生かした授業づくり～

授業改善のポイント

○ 自らのことを振り返って考えることにより、問題意識を持たせる。
○ ワークシートを活用し，思考力・判断力を養う。
○ グループ活動により，様々な意見を受容し、考えを深める。

取組例①
取組例②

活用できる単元：心身の相関とストレス・ストレスへの対処

取組例①

◇ 導入時に，ストレス発散能力チェックを取り入れ、自分と関連付けて考えさせる。

■ 授業における導入は，本時の目標を明確にするだけでなく，生徒の内発的な学習意欲を喚起する重要な時間である。

ﾜｰｸｼｰﾄ１　ストレス発散能力を，チェックしてみましょう。

①自分の感情を表現できる場所がある。
②できなくてもがっかりしたり，自分を責めたりしない。
③体調が悪いときは自粛し，無理をしない。
④その場で言えないことは，後で口に出してみる。
⑤好きなことをすることで，ストレスを解消しいている。
⑥失敗しても仕方ないと思って乗切れる。
⑦自分はそれほどたいした人間でないことを知っている。
⑧マイナスと思えることにもプラスの側面があると思う。
⑨今しかできないことを積極的にやっていこうと思う。
⑩休日を優雅に過ごす方法を知っている。

	yes	no
①		
②		
③		
④		
⑤		
⑥		
⑦		
⑧		
⑨		
⑩		

○「yes」の数１個につき１点，何点でしたか。［　　］

（出典：菅野泰蔵 「なんとかなるさと思える本」）

取組例②

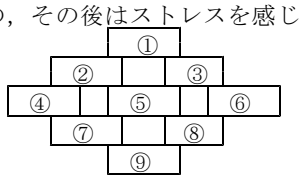
◇ ワークシートを活用し，個人で考え，それをもとにグループで話し合う。

■ ワークシートを活用することで，考えを深め，グループ活動により他者の意見を受容したり共有する場とする。
１　ストレスの原因について個人的に考える。（ﾜｰｸｼｰﾄ２）
２　個人の考えをもとに，グループで話し合う。（ﾜｰｸｼｰﾄ３）
３　他者の考えを聞き，人により様々な考えがあることやその対処法について意見交換することにより，自分にあった対処法を考える。

ﾜｰｸｼｰﾄ２

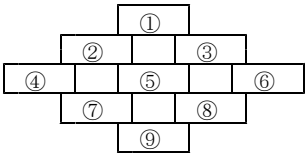
1　あなたは，次のＡ～Ｉの内，どのことにストレスを感じますか。いちばん感じたものから順に右図に書き入れましょう。（ﾀﾞｲﾔﾓﾝﾄﾞ･ﾗﾝｷﾝｸﾞ：①にいちばんストレスを感じるもの，その後はストレスを感じる順に並べる。）

Ａ お金
Ｂ 友人
Ｃ 勉強（成績）
Ｄ 将来のこと
Ｅ 自分の性格
Ｆ 学校生活
Ｇ 身体（体型等）
Ｈ 親・家族
Ｉ 部活動や放課後のこと



ﾜｰｸｼｰﾄ３

1　個人の考えをもとに，グループで話し合い，グループでの順位を決めましょう。



2　１位から３位についてストレスの原因にどのように対処しているか，グループで話し合いましょう。

１．原因	対処法
２．原因	対処法
３．原因	対処法

3　自分にあった対処法を具体的に考えましょう。

（７） 芸術
～伝え合う活動を取り入れた鑑賞の授業づくり～

授業改善のポイント

【音楽】
○ 鑑賞活動において，音楽を形づくっている要素を知覚・感受し，仲間と意見を共有・共感できる指導を工夫する。 取組例①

【美術】
○ 自分の思いを語り合ったり，自分の価値意識をもって批評し合ったりするなど，鑑賞の指導を工夫する。 取組例②

【書道】
○ 教科横断的，探究的な学習を通して学習意欲を高める。 取組例③

取組例①

◇ 楽曲について，音楽を形づくっている要素の働きやその効果を感じ取り，根拠をもって自分なりに批評することができる力の育成を図る。

1　題材名　「音楽のよさを感じ取ろう ～音楽通信のコメントを書こう～ 」
2　学習活動と指導のポイント
(1) 音楽通信で紹介する楽曲を聴き，イメージを感じ取る。
(2) そのイメージの根拠となる諸要素を聴き取る。
(3) 楽曲の批評文を書く。
(4) 楽曲の批評文を発表し，お互いの意見を出し合う。
※(1) (2) ワークシート等を作成し効果的に活用させる。（知覚・感受）
※(3) 音楽に関する言葉を適切に用いて批評文を書かせる。（言葉のヒントカードの利用）
※(4) 自分の批評が他者に理解される。また，意見を論じ合うことにより，楽曲や演奏をより深く，かつ多面的に深められる。

取組例②

◇ 気に入った作品を取り上げて，自分の感じたことや調べて分かったことをまとめて紹介させる。

1　題材名　「○○○美術館　～ コメンテーター体験 ～」
2　学習活動と指導のポイント
(1) 気に入った作品を一点選び，自分なりの見方や感じ方を大切にして，批評文を書く。
(2) 美術鑑賞番組のように司会者とコメンテーター役となって，作品を紹介する。
※ 「きれい・すごい・上手」等の表現に留まり，語彙の少なさから感じ取ったことを十分に伝えられない生徒には，語彙カード（造形要素や感情を伝える形容詞等の用語を書いたヒントカード）を用意し，活用させる。直感的に感じ取ったことやそう感じた根拠を造形的な視点から分析し，言語化できるようにさせる。その活動によって，これまで漠然と見ていたことが整理され，作品の中にある美しさの要素が明確になる。
※ 図書館やインターネット等を活用して調べる時間を確保する。
※ 自分なりの見方や感じ方を他者に伝える喜びを味わわせて，美術文化の継承と創造への関心を高める。

取組例③

◇ 国語科（古典）との連携を図る。

■ 国語科による古典の学習後，同じ題材を書道の時間で取り上げ，作者の意図や心情を考えるような授業展開をする。
1　題材名　「仮名の鑑賞」
2　学習活動と指導のポイント
(1) 古典の時間に学習した『古今和歌集』の歌が書写されている古筆を鑑賞する。
(2) 生徒の見方や鑑賞内容を聞く。
※　歌人の意図や心情をふまえ，多様な書美を味わい感性を高める。
※　仮名作品には，適宜漢字に変えることができ，これに連綿や散らし書き，墨の潤渇，使用する料紙など工夫すれば無限の表現が可能になる。
※ 生徒の感性を高めるために，寸松庵色紙，元永本古今集，関戸本古今集，高野切第一種などの古筆（同じ歌が書写されている部分）の素晴らしさを，直感的・分析的に把握し，自分の感じ方や好みを述べる。
※他の生徒の見方や鑑賞内容を聞き，多様な書美を理解する。

（８） 外国語
～アウトプット活動を取り入れた授業づくり～

授業改善のポイント

○ 英語で音読する機会を，生徒にできるだけ多く与える。 取組例①
○ 生徒がスムーズに活動に参加できるよう工夫をし，成功体験に結びつける。 取組例②
○ 活動に目的をもたせ，「読む」「聞く」「書く」活動を「話す」活動につなげる。 取組例③
○ 生徒に英語を使わせながら文法を理解・定着させる。 取組例④

取組例①

◇ 音読にバリエーションを持たせ，目的に応じて効果的に授業に取り入れる。

■ 音読の効果は，話す力だけでなく，やり方によっては読む力や聞く力の向上にもつながるといわれています。また，生徒のモチベーションを上げる効果も絶大です。

以下の点に着目して，音読のバリエーションを広げよう。

１ 一度に読む英文の長さ
文単位，節単位，句単位，単語単位とありますが，回数を追うごとに徐々に長い単位で読むようにする。

２ 教科書を見る？見ない？
教科書を開くなら･･･Read & Look up で範読に続いて読む。
〃 閉じるなら･･･範読に続いて Shadowing をする。

３ 速さを変える
slow → natural → accelerated と速さを変えて読む。

４ 何人で読む？
一斉読み，個人読み，役割読み，ペア読み等

５ いつ読む？
英文を解釈する前に読む or 解釈した後で読む。生徒の習熟度に合わせて選択。初見で読む方が難易度が高い。

指導の要点

チャンクごとに，前から前から意味を取ろうとしながら音読する。

単語と単語の間の音の変化を正確に聴き取り，聞こえたとおりに読む。

腹式呼吸をしっかりと学び，一定の量を呼吸をせずに，リズムを意識して読む。

音読がリスニングやリーディング，文構造理解に効果的なことを納得させる。

《発展学習》教科書を加工して，こんなワークシートも活用できる！（音読に負荷をかける）

(For Individual)

Every year thou s of t ists visit P ,
Italy. They see the s ts that Pompeii is f
for : its stadiums and th ers , its shops and
re . The tourists do not, how , see
Pompeii's p . They do not see them because
Pompeii has n p . No one h l
in Pompeii for almost _____ years. ･･･

(For Pair Work)

A:Where _____ visit _____ every year?
B: _____.
A:Then, what _____ famous _____?
B:It's famous _____.
A:I hear the tourists _____. Why not?
B:Because _____.
A:I see. Then, how long _____? ･･･

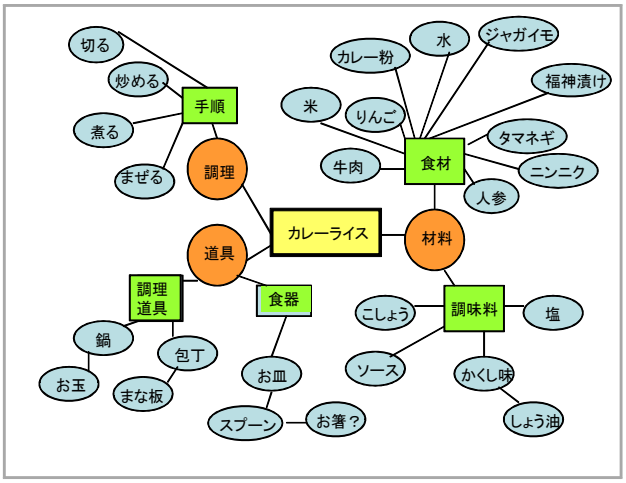
取組例②

◇マッピングを使って生徒の発想や思考を補助し，スムーズな活動につなげる。

■　マッピングは発想の補助や思考の整理に有効で，ライティング活動やプレゼンテーション活動で，生徒のやる気を高め，スムーズな活動を促す手段としてよく使われています。また，工夫次第では，リーディング活動やリスニング活動における解釈の補助手段としても効果があります。

【マッピングを使った活動①】　例：ライティング（スピーキング）

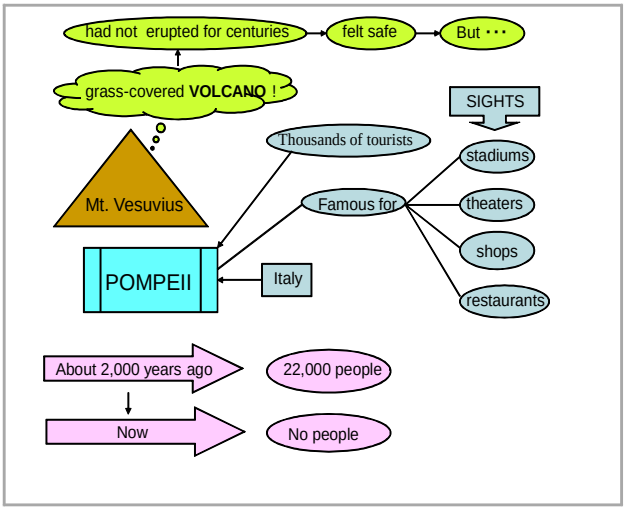
テーマ：「好きな料理のレシピを作ろう！」



手順１：黒板に例を示しながら，マッピングのしかたを体験的に学ばせる。（図参照）
手順２：自分のテーマでマッピングさせる。
手順３：マップを見ながら，キーワードを使って文をつくらせる。（英文の語順で）
①（You）＋　集める ＋　全ての食材
②（You）＋　切る ＋野菜 ＋包丁で
③（You）＋　炒める ＋肉を ＋鍋で
④（You）＋　・・・
手順４：手順３に必要な単語を調べさせる。
手順５：手順３を英文で書かせる。
手順６：文のつながりをチェックさせる。
手順７：ペアで互いの英文をチェックさせる。
手順８：クラスや班で発表させる。
※習熟度に応じて，手順３を省略してもよい。また，可能であれば英語でマッピングさせるともっと効果的である。

【マッピングを使った活動②】　例：リーディング（リスニング）

テーマ：「読み取った（聞き取った）内容を相手に伝えよう」



手順１：本文を読んで（聞いて）メモを取りながら，その関係性をマッピングする。英語で行うのが望ましいが，習熟度に応じて日本語や図，記号を使用してもよい。
手順２：マップを見ながら，読み取った（聞き取った）内容を再構築する。その際，できるだけ自分の言葉で書かせること。（英作文）
手順３：必要な情報が正確に伝わったかどうか等をペアで相互評価させる。
手順４：教師（JTE 又は ALT）が英文をチェックし，rewrite させる。
手順５：クラスや班で発表させる。

取組例③

◇Show & Tellで話す力を育成する。

■　音読指導により，生徒のアウトプット活動が活性化してきたとしても，それをスピーキング活動にまでつなげるのはなかなか難しいものです。ここでは，前ページで紹介した２つの活動を，Show & Tell によりさらに発展させて，生徒の意欲を高めながら，話す力を育成する活動を紹介します。

【スピーキング活動　例】

テーマ：「自分が調べたことを人に伝えよう！」

～調べる～

手順１：発表する題材を決める。（例：My Dream，My favorite animal 等）
　　レッスンの主題やその関連事項がよい。
手順２：題材について調べさせる。
手順３：マッピングを使って内容を整理させる。　・・・・・・・・・・・・　取組例②

～書く～

手順４：マップを見ながら紹介したいことを列挙させる。
　　また，列挙したものにpriorityをつけて項目を絞り込ませる。
手順５：①手順４の項目の順序を考えながら，日本語で文章を書かせる。（できれば英文の語順で）
　　②英文で書かせる。（①を省略してもよい。）
手順６：ペアで互いの英文を添削させる。（その後できれば JTE 又は ALT がチェックして rewrite させる）

～話す～

手順７：Read & Look up で音読練習をさせる。
手順８：発表に用いる写真やスライド，パワーポイント等の資料を準備させる。
手順９：Show & Tell の練習をさせる。
　　＜留意事項＞
　　・原稿を見ないで話す。
　　・マップを見ながら話してもよい。
　　・資料を示しながら伝えようとさせる。（ICT を活用するのもよい！）
　　・十分な練習時間をとり，自信をつけてから発表させる。（成功体験に結びつけるため）
手順10：発表させる。（クラス又はグループ単位）
手順11：必要な情報が伝わったか，伝え方はうまかったか，等を生徒に相互評価させる。

※ここでは書く活動と話す活動を組み合わせましたが，英文を読んで（聞いて）アウトラインを説明させたり，自分の意見を言わせる活動にもつなげられます。

取組例④

◇ コミュニケーション活動を通して文法を理解，定着させる。

■　生徒の学習意欲を高め，「生きた」文法を身につけさせるためには，普段の授業の中で，生徒に英語を使わせながら文法の力をつけていくことが大切です。また「英語Ⅰ」（新学習指導要領では「コミュニケーション英語Ⅰ」）のような４技能をバランスよく伸ばす総合的な科目では，指導内容と指導方法について事前にしっかりした計画を立てておき，授業が文法の単元学習に陥らないようにすることが大切です。

【はじめに】

次の視点から文法指導の綿密な指導計画を立てる。

視点１　何をどの程度まで，どの科目で，教えるか。

英語Ⅰでは，主に文構造理解に重点を置き，必要以上に文法知識を教えすぎないこと。まず教師が教科書を最後までよく読み，教えるべき項目と指導する時期を整理する。

視点２　どのような活動を通して教えるのか。

教師による説明はできるだけ短く簡潔にする。基本的に「例の提示」と生徒の「気づき」によって理解をさせ，コミュニケーション活動の中で使わせながら定着を図る。

視点３　家庭学習を補完的に使う。

予習として，①英文中の SV を探させる，②節を[　]で包ませる，③最近習った文法事項に下線を引かせる，④復習として和訳をさせる，などを習慣化させる。

【視点２の具体例（英語Ⅰ）】

文法項目：不定詞の意味上の主語

Let's compare!　（教師が黒板又はワークシートを使って行う。）

(Sentence A)　This is an easy book to read.

(Sentence B)　This is an easy book for me to read.

Q.　Who can read the book easily?

A.　(Sentence A)　We (Everyone) can.

(Sentence B)　I　can.

Let's answer!　（教師＆生徒又はグループで行う。）

Mike:　May I use this car?

Meg :　No. This is the car for my father to use.

Q.　Who will use this car?　　A.　Meg's（Her）father will.

Mike:　This chair looks comfortable!　May I sit on it?

Meg :　No. It's the chair for Tom to sit on.

Q.　Who will sit on this chair?　　A.　Tom　will.

Let's communicate!　（ペアで行う。Mike 役が考えたセリフに対して Meg 役がその場で応答する。）

Mike:　Excuse me, but may I　eat this cake?　It looks delicious.

Meg :　I'm sorry.　It's the cake for my son to eat.

※ペアワークをする際の注意事項

①十分に練習をしてから行わせること。（成功体験に結びつけるため）

②「伝える（伝わる）」ことを意識させて活動させること。（音量，速度，身振り等を考えさせる）

③相手の目を見ながら行わせること。

④冒頭に"Hi" とか "Good morning.　How are you?" など，自然なコミュニケーションを導く表現を入れさせること。

⑤単に「読む」活動ではなく，相手の言葉に反応（response）させる活動を心がけること。

（９） 家庭
～生涯の見通しをもって主体的に学ぶ授業づくり～

授業改善のポイント

○ 言語活動との関係を重視し，他者とかかわる力を育てる指導を充実する。
○ 生活の中で活用する視点を明確にした実践的・体験的な学習活動を充実する。
○ ＩＣＴ等を活用し，学習意欲を高めたり一人一人の理解度を確認したりする。
○ ホームプロジェクトや学校家庭クラブ活動との関連を図る。

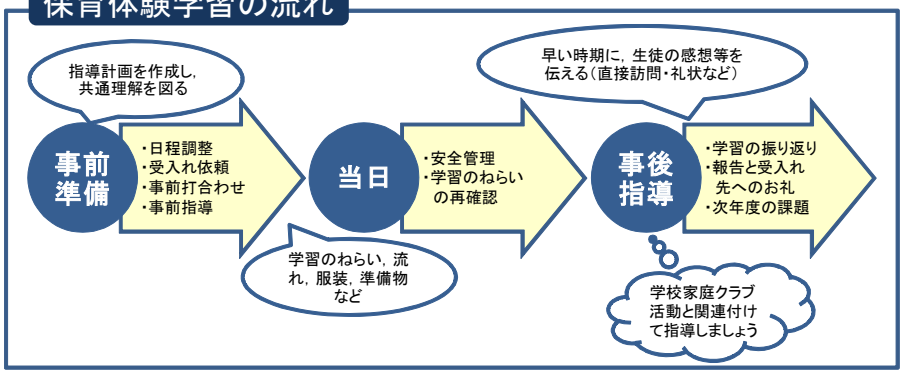
取組例①
取組例②
取組例③

取組例①

◇ 子どもや高齢者など，異なる世代と実際にかかわる体験的な活動を授業に取り入れる。

■ 実際に幼児や高齢者など異世代と触れ合う体験は，他者への理解を深め，人とかかわる力を育てます。積極的に保育体験学習や高齢者との触れ合いや交流の機会を設けましょう。

保育体験学習の流れ



【保育体験学習の様子】

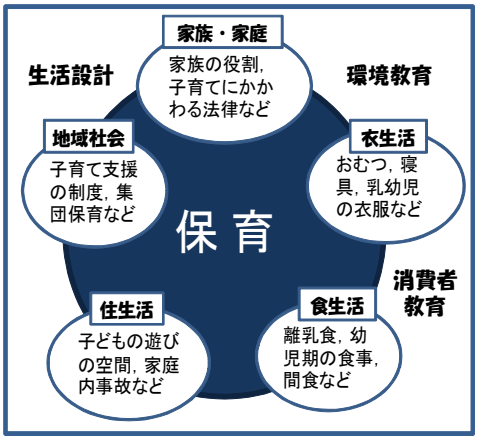
保育分野の授業づくりの視点

○ 生徒の過去，現在，未来をつなぐ授業

中学校の幼児触れ合い体験は「子どもが育つ」視点，高等学校の保育体験学習は「子どもを育てる」視点を重視している。子どもを生み育てることの意義や，子どもの健全な発達を支援するために社会が果たす役割について，生徒自身に考えさせる授業が求められている。

○ 他の内容と関連させて総合的に学ぶことができる授業

各指導項目を関連させ，系統的・総合的に学べるよう指導計画を工夫すると，限られた授業時間数でも充実した授業づくりができる。



【保育に関連のある内容】

【授業展開例１】

テーマ「仕事と子育て」

(1)学習のねらい

職業労働と家事労働，男女の育児分担，子育て支援制度等への関心を高め，将来の自分と関連付けて学習意欲を高める。

(2)学習活動

①身近な大人にインタビューを行い，生活経験談をもとにテーマに沿った課題を設定し付箋に書かせておく。
②一人一人が付箋に書いた課題を発表し，内容別に構造化する。
③班ごとに解決すべき課題を設定する。
④解決のための手立てを教科書の他の内容や資料集を参考に調べてまとめ，発表し合う。

取組例②

◇ さまざまな視点から生活にかかわる事象をとらえたり，根拠に基づいて判断したりするなど，実践的・体験的な学習活動をより一層充実し，生活の中で活用する力を高める。

■　生徒の実態や学習のねらいを考慮して，製作，調理などの実習や，観察・実験，見学，調査・研究などの具体的な学習活動を設定する。その際，生活の中にある事象をさまざまな視点（客観的，批判的，多角的，全体的，部分的など）から追究したり，根拠に基づいて考え判断したりする学習活動を重視し，科学的な認識を育てる授業づくりを心がける。

次のような活動を取り入れ，思考力・判断力・表現力等の基盤となる言語活動との関係を重視した指導方法を工夫しましょう。

1　事実を正確に理解し伝える。
- 学習活動を振り返り，結果を記述・報告する。その際，学習の質が高まるようワークシート等の記述部分を工夫する。

2　体験から感じ取ったことを表現する。
- 感じ取ったことを言葉や歌，絵，身体を使って表現する。
- 生徒が発表する場面（班活動も含む）を設けるなど，指導方法や指導形態を工夫し生徒の主体的な活動の場面を取り入れる。
- 礼状等の作成，文化祭での展示など学校家庭クラブ活動と関連付ける。

3　概念･法則･意図などを解釈し，説明したり活用したりする。
- 子どもや高齢者に関連する福祉の理念を理解し，現状や課題を踏まえて，社会の一員として具体的に自分に何ができるかを考え発表するなどの学習活動を工夫する。

【授業展開例２】

テーマ　「被服の素材」

(1)学習のねらい

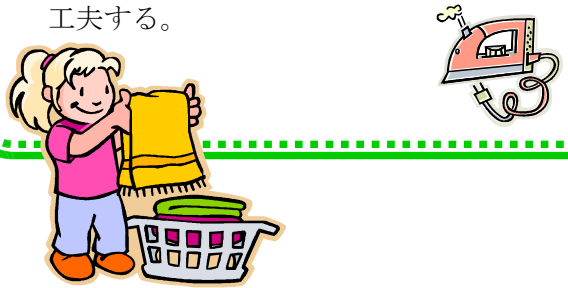
快適な衣服の選択や管理に必要な知識（繊維の種類と性質，被服の素材に求められる性能等）を観察や実験を通して，生徒に考えさせながら理解させる。

(2)学習活動

①繊維名を伏せた実験用白布（綿・麻・毛・絹・ナイロン・ポリエステル・アクリル等から適宜選択）を準備し，吸水性や乾湿強度比，伸縮性，耐熱性，塩素系漂白剤の可否，風合い等について観察や実験を通して調べ，繊維名を予測させる。

②予測した繊維名をワークシートに記入し発表する。その際，「なぜそう判断したのか」を，観察や実験の結果や教科書の内容と関連付けて説明させる。

③洗濯やアイロンがけ等，被服の管理に役立つ情報をまとめ，実生活で活用できるよう工夫する。



実際の生活との関連を考えながら実践的･体験的に学ぶことができるようにしましょう。

【言語活動との関係を重視した指導方法の工夫】

➢子どもや高齢者など様々な人と触れ合い，他者とかかわる力を高める活動
- *保育体験学習*
- *高齢者との交流*

➢衣食住などの生活における様々な事象を言葉や概念などを用いて考察する活動
- *話す,聞く，書く，読むことを通した学習*

➢判断が必要な場面を設けて理由や根拠を論述したり解決方法を探究したりする活動
- *ホームプロジェクト*
- *学校家庭クラブ活動*

【授業展開例３】

テーマ　「高齢者とかかわる」

(1)学習のねらい

地域の高齢者を学校に招き，高齢者と実際に触れ合う活動を通して，高齢者への理解を深める。

(2)学習活動

①高齢者と生徒が相互に自己紹介をする。

アイスブレーキングになるような活動を工夫することも考えられる。

②テーマを決めて高齢者に話してもらう。

例えば，高齢期になって感じていること（身体的変化，精神的変化，衣食住の具体的な生活上の変化等）や毎日の楽しみ・生きがい，これまでの人生で楽しかったこと・苦しかったことなどが考えられる。

③班ごとに質問を出し合い，回答しやすい形に整理して，高齢者に答えていただく。高齢者から高校生へのメッセージを伝えてもらう。

④実際にかかわる体験を通して，高齢者へのイメージがどのように変化したのかをまとめて発表する。

⑤高齢者を取り巻く社会の課題についても理解を深めるよう配慮する。

■「“あわ”人権学習ハンドブック」にも個別人権課題の一つとして高齢者の問題が取り上げられています。

他教科等との連携を図り，少子高齢社会における高齢者の肯定的な理解や支援する行動力をはぐくむ指導方法を工夫しましょう。

【高齢者との交流の様子】

取組例③

◇ ＩＣＴ等を活用して，効果的な指導方法を工夫しましょう。

■　「Ｈｉ！家庭科」（徳島県高等学校教育研究会家庭学会が文部科学省「教育情報共有化促進モデル事業」により研究開発したホームページ）のデジタル教材等を，授業の導入や展開で学習意欲を高めたり，学習のまとめで理解度を振り返ったりする際に活用する。主な内容は次に示すとおりで，授業実践事例も掲載されている。

http://e-school.ias.tokushima-u.ac.jp/hi-katei/

【主な内容】

○ 授業ですぐに使える！家庭科教材集
- 教材コンテンツ＆リンク集
- ミニテスト集
- フリー素材（写真・イラスト）

○ 楽しく使って楽々マスター！
- 家庭科教員のためのパソコン活用術

○ 授業をサポート！楽々プラン
- 授業プランニングボード

○ のぞいてみよう楽しい授業！
- 授業実践事例集（指導案と動画）

■　ＴＶ会議を活用して，授業や学校家庭クラブ活動の指導方法を工夫する。「家庭科会議室」を設け利用しやすくしているので，ＴＶ会議の活用を図る。

http://apottvm161.tokushima-ec.ed.jp/adhoctool/entrance.cgi

［参考文献］鶴田敦子・伊藤葉子,『授業力UP家庭科の授業』, 日本標準, 2009.

（１０） 情報
～情報活用能力をはぐくむ～

授業改善のポイント

○教科の中だけでの活用に留めるのではなく，各教科・科目等の学習に役立つよう，他の各教科・科目等との連携を図る。【情報活用の実践力】 取組例①

○情報モラル教育の必要性や社会生活の中で情報や情報技術が果たしている役割や影響について理解させる。 【情報社会に参画する態度】 取組例②

取組例①

◇ 校内における様々な成果発表等において，プレゼンテーションソフトを使用することを前提にした教科「情報」としての取組を考える。

■ プレゼンテーション資料の作成や発表・評価を通じて，情報活用の実践力を養う。

インターンシップ報告会

1 プレゼンテーション資料の作成方法について学習する。（文字の大きさ，色調，表現方法）〈一斉学習〉

2 プレゼンテーションの評価項目について具体的に検討する。〈一斉学習〉
- プレゼンテーションの表現方法（見やすさ・伝わりやすさ）
- プレゼンテーションの内容（情報の正確さ）
- 発表（姿勢・聞きやすさ）

3 具体的なテーマを設定し，プレゼンテーション資料を作成する。〈グループ学習〉

4 クラス内で発表し合い，生徒が相互評価を行う。

5 評価を元に改善点をグループで討議し，プレゼンテーション資料の手直しを行う。〈グループ学習〉

教科「情報」で取得した知識・技能を，他の教科・科目等で活用できるよう，教師間の連携を深める。（インターンシップ報告会，各教科等の探究活動の発表等）

取組例②

◇ 教科「情報」における情報モラル教育の在り方について考える。

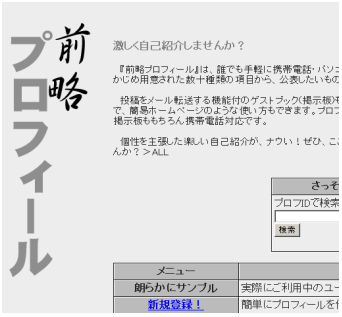
【テーマ】「携帯プロフサイトにおける個人情報の記載の危うさを考える」

1 携帯の掲示板に関係する事件や事故について，具体的な記事を検索する。〈グループ学習〉

2 その原因や問題点について情報社会の特性などについてグループ内で討議し発表する。〈グループ学習〉

3 身近な掲示板等での個人情報の記載について紹介し，事件性の可能性や掲示板サイトの利用規約（責任については自己責任である）等紹介し，その問題点を指摘する。〈一斉学習〉

1 個人としての責任（法令等に基づく）について考えさせ，安全で快適な情報社会とのつきあい方について学習する。〈一斉学習〉



前略プロフィール
http://pr.cgiboy.com/

【参考資料】：独立行政法人教員研修センター「情報モラルキックオフガイド」情報モラル研修教材2005
http://sweb.nctd.go.jp/kyouzai_new/index.htm
徳島県教育委員会，いじめ問題等対策企画員室，徳島県警察本部少年課編
「インターネットプロフ ィールサイトでのトラブル対応マニュアル」平成21年5月発行

(11)　農業
～事例や記録を活用して生徒の意欲を醸成～

授業改善のポイント

○ 社会の事例に結びつける授業で学習の意義を感じさせ，意欲を高める。　取組例①
○ 記録をもとに，学習・活動を振り返り，考えを深め，喜びを実感させる。　取組例②

取組例①

◇ 農場の規模を把握させ，地域農業の事例と比較することにより，学習と社会の結びつきを実感し，学習の意義を感じさせ，学ぶ意欲を高める。

【工夫例】　栽培面積を把握し，農業生産の要素を意識させながら，栽培学習の意義を実感する。

1　栽培面積を正確に把握させる。
（面積が既知であっても，生徒自身が実測して確認する。巻尺だけでも測定はできる。）
2　その面積がもつ意味を，様々な観点で考える。
（地域の農家１戸当たりの平均栽培面積に比べるとどうか。）
（その土地でどのくらいの収穫があるか。何人が養えるか。）
3　学校の栽培計画と地域の標準栽培計画を比較し，違いを理解させる。
（植え付け本数など，面積によって変わってくる要素を比べ，その違いをつかむ）
4　面積によって違ってくる種苗，肥料，農薬，資材等の必要量及び経費を積算させる。
（面積を基準に消耗品を積算し，準備する。）
5　資材の使用記録をとり，実際の使用量を把握する。
（積算は妥当であったか点検させる。）
6　実際の収量を調査し，地域の基準収量等と比較して，評価する。
（単位面積当たりの収量に換算し，比較する。）

取組例②

◇ 日々の実習の記録を確実に行い，記録簿作りを通して，書き残しておくことは学びの財産作りであることを実感させる。

■　実習作業に追われて，実習記録がとれていない場合が見られるが，記録は，実習の大切な一部である。記録は学びの財産となる意識をもって，記録する時間を確保し，その日に必ず記録を残すようにさせる。そして，記録簿から学びを振り返る時間を設けて，記録の重要性を認識させる。

【工夫例】記録簿の活用（その都度，記録。欠かさず，記録。記録を習慣化。振り返るために記録。）

1　形式　　ノート式や手帳式は，記録が散逸しない。
ファイル式はその都度ファイリングさせる。
2　記録内容　事実と考察を記録させる。
（見聞・実践・観察したこと）
（感じたこと，疑問に思ったこと，考えたこと）
3　コメント　記録の点検時にアドバイス・評価を記入し，継続することを支援する。
4　写真　　デジタルカメラを用意しておき，後で記録簿に添付する。
5　自作の図　作業や観察のポイントなどを，絵で表現する。作成には時間がかかるので，別に「記録簿作り」の時間を設けて集中的に取り組ませる。
6　まとめ　　学びの記録を再構成させ，目次をつくり，学んだことの振り返りをさせる。

(12)　工業
～ものづくりのスペシャリストを目指して～

授業改善のポイント

○ 高度熟練技能士など外部講師の活用をする。　取組例①
○ インターンシップ，就業体験など地域産業への理解を深める。
○ 資格取得，検定試験合格に向けて，３年間のプラン作成をする。
○ ものづくりの楽しさを体験，発表する。　取組例②

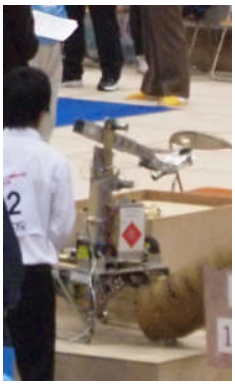
取組例①

◇ 産学連携で競技大会の入賞を目指した取組

■　数多くあるものづくりやロボット等の競技から，３年間をとおして取り組む部門を選択し，全国大会優勝を目指し，必要な知識やスキルを計画的に身につけさせる。必要に応じて大学，高専，企業の技術者の指導・助言を得る。

全国高等学校ロボット競技大会，全国相撲ロボット競技大会，高校生ものづくりコンテスト
若年者ものづくり競技大会，ジャパンマイコンカーラリー，ROBO-ONE，RoboCup など

【例】高等学校ロボット競技大会
1)工作機械の操作，はんだづけ［工業技術基礎］
スキルアップに外部講師（高度熟練技能士等）
2)設計［製図］
3)製作（組立，プログラム）［実習，情報技術基礎，ハードウェア技術，ソウトウェア技術］
大学，企業の指導
4)競技参加　全国優勝へ



取組の結果，ものづくりの基本を習得し，大会へ参加・上位入賞を目指すことで機器の改良や創意工夫への意欲を喚起する。

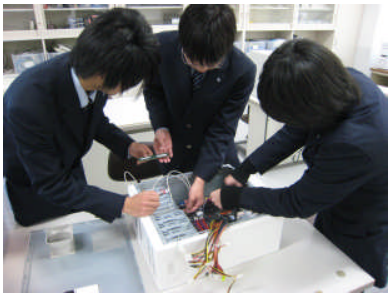
取組例②

◇ 「ものこわし」から「ものづくり」

■　機械科では，原動機の分解・組立を，情報に関する学科では，コンピュータ組立などの実習を行っている。その他の学科においても古くなった家電製品や工作機器を各部分の働きや機構を学ばせながら分解し，またそののち組立できるものは復元するという学習をとおして，ものづくりの楽しさを理解させることができる。

【例】オーディオアンプの分解・組立
1)基本的な回路に分ける。　→　機械の構成を知る。［工業技術基礎，電子技術］
2)特性試験［実習］
電源回路（変圧器）　→　無負荷，負荷試験
整流回路，変調回路　→　オシロスコープを使って波形観測
増幅回路　→　特性測定（取扱説明書の規格との比較）
3)増幅回路の設計，製作［課題研究］

【例】伝統建築物（寺社等）の修復から学ぼう。
［建築構造，建築構造設計，建築施工，製図，実習
課題研究］
1)修復現場の見学
2)伝統的技法について技術者からの講義
3)構造について製図
4)模型の製作



取組の結果，自分が学習していることが身の回りのものづくりに密接に関係していることを理解し，ものづくりの視点からの疑問を解決する方策を工夫し，模倣から創造への意欲を引き出す。

(13)　商業
～ビジネス実践力を高める授業づくり～

授業改善のポイント

○ 実践的・体験的活動を通して，創造的な能力と実践的な態度を育てる。　取組例
○ 検定試験・資格試験の活用を通して，知識と技術及び技能の定着を図る。
○ 地域との連携や外部人材の活用を通して，知識，技術及び技能の定着，実践力の深化を図る。

取組例

◇ 各科目の学習に，実践的・体験的活動を取り入れ，創造的な能力と実践的な態度を育てる。

■　各科目における学習場面において実践的・体験的活動を導入することは，知識・技能の定着を図るだけでなく，創造的な能力と実践的な態度を育て，生徒の内発的な学習意欲を喚起するのに有効である。

【具体例】
・新聞，放送，インターネットなどの活用を日々の授業に取り入れる。
・具体的な事例に基づくケーススタディやグループでの討論や考察を積極的に授業に取り入れる。（自らの考えや意見を整理・発表することで，主体的な学習が可能となる。）
・実際のビジネスに即した体験的なビジネス活動を取り入れる。

◎基礎的科目（ビジネス基礎）での取組例
【単元】経済生活とビジネス　「ビジネスに対する心構え」

【学習のねらい】
・ビジネスに対する心構えについて理解させる。
・ビジネスに対する望ましい考え方について理解させる。
・高校生としてどのようなことを身に付けるべきかを認識させる。

【学習活動】
1　ビジネスの場面で必要なマナーについて，新聞，放送，インターネットなどで情報を収集させる。
2　個々の生徒の収集した情報をもとにグループで討論させる。
3　討論の結果を整理させる。
4　意見や感想を発表させる。
5　必要だと考えるマナーを身に付けるために，取り組むべきことを考える。
6　マナーを通して，ビジネスに対する心構えについて考える。

【指導上の留意点（指導方法の工夫改善）】
1　ビジネスにとって必要なマナーを様々な情報源から自ら調べ収集する活動を取り入れる。
2　グループによる討論を取り入れ，ビジネスにとって必要なマナーを身に付けるには，具体的に何が必要かを様々な角度から考察させる。
3　討論中に教師は問いかけや助言により揺さ振りをかけ，生徒の思考を深めさせる。
4　ワークシートを用意し，討論や思考の結果をまとめさせる。
5　発表活動を取り入れ，ビジネスにとって必要なマナーを身に付けるために何が必要かについて意見を発表させる。
6　収集した資料や討論の記録等をワークシートとともにバインダーにとじさせ，ポートフォリオを作成させ，学習の成果を振り返ることができるようにする。
7　振り返り活動を取り入れ，ビジネスに必要なマナーを意欲的に身に付けようとする動機付けを図る。
8　まとめの活動として，ビジネスに対する心構えとして，豊かな人間性や創造性が大切であることに気付かせる。

(14)　水産
～普段の生活の中から気づきを促し，学習意欲を高める～

授業改善のポイント

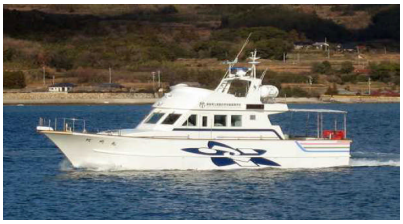
○ 学びの習慣化により，海洋についての興味や関心をはぐくむ。　取組例①
○ 身近な課題にグループで取り組み，ともに学ぶ意欲を高め合う。　取組例②

取組例①

◇ 実習船に乗船時に，海水・環境を観察・調査する。

■　水産・海洋学習のフィールドの中で，定期的で乗船回数が多い実習船を活用する。

【工夫例】



1　実習船に乗船時には，必ず次のことを調査する。
・時刻・気温・天気・気圧・風力・風向・海水温・潮位・透明度・波浪等現場で観測できる項目を決める。
（各項目それぞれに調査員を決めておき，集合前に調査を発表できるように準備させ，記録をさせる。調査員は，定期的に交代する。）

2　調査結果を，「水産情報技術」でまとめ，グラフ化し，全員で共有する。

※　調査を繰り返すことにより，学びを習慣化させ，気づきを促す。

取組例②

◇ 水産・海洋に関する課題にグループで取り組み，発表会を開く。

■　入学してきた生徒には水産体験が少ない者も多いが，仲間で身近な課題に取り組むことによって，興味関心や目的意識を高め，学習意欲を喚起していく。このことにより，２年，３年での専門的な学習の深化や課題研究への発展が期待される。

【工夫例】テーマ「日本人の食生活と水産物の関係について調べてみよう」（章末課題より）

1　２０人のクラスを４人ずつの５グループに編成する。

2　全員にある日の食事内容を記録させる。（休日の３食）
記録内容　メニューと食材（できるだけ詳しく）

3　全員分の食事メニューと食材を一覧表にまとめる。

4　一覧表を見て班ごとに「食生活と水産物」の観点から課題を設定させる。
課題例　Ａ班　食材に使われている魚介類・海藻類の種類を調べよう
Ｂ班　味噌汁を調べよう（だしの取り方と具材）
Ｃ班　水産加工品を調べよう(かまぼこや缶詰の使われ方)
Ｄ班　好き嫌いを調べよう（主菜のメニューと好き嫌い）
Ｅ班　肉や卵，大豆を調べよう（摂取タンパク質は何）

食事調査（ 5月15日）

区分	メニュー	食材
朝食	ご飯	米
	味噌汁	白菜
	フィッシュカツ	フィッシュカツ
	漬け物	大根
昼食	ラーメン	ラーメン
		豚肉
夕食	手巻き寿司	酢飯
		のり
		刺身マグロ
		刺身ハマチ
		刺身アジ
		カニカマ
		たくあん
		キュウリ
		玉子

5　各班の課題に対応した調査票を作成し，班員で１週間の食事調査を実施する。

6　１週間の調査の結果をまとめ，考察する。表やグラフに整理し，発表の準備をする。

7　各グループ７分間で発表し，質問や感想等の意見交換を行う。

8　発表会の終了後，「日本人の食生活と水産物」と題して，各自が作文を書く。

※　指導上の留意点
①最初から負担を感じさせない。最初の調査は１日限り。（予備調査）
②具体的な資料を基に課題を設定させる。
③班員の中で調査することにより，責任感と協力することの大切さを感じさせる。
クラス全員を対象にしてもよいが，無理をせず，成就感を味わわせる。
④発表の後には，必ず振り返り，学んだことの確認を行わせ，評価する。

(15)　看護
～基礎学力の充実と実践力を育成する授業づくり～

授業改善のポイント

○ 知識・技術の確実な習得を図るとともに，思考力や判断力を養う。　取組例①
○ エビデンスに基づき個別性に応じて必要な看護を判断し，実践できる力を育てる。　取組例②

取組例①

◇ 臨床で応用できる知識・技術の習得を目指し，講義と校内実習との一体的な指導を工夫する。

■看護基礎教育では看護実践に必要な基礎的な知識と技術の確実な習得が重要です。知識・技術の確実な習得を目指すとともに，場面や患者を具体的に設定し，「この場合はどうするか」や「想定されることは何か」等，生徒が主体的に考えたり判断したりする指導の工夫が求められます。

【講義】「考える力」の育成と定着を図る。

①具体的な場面を設定し，必要な看護について考えさせる。
・患者の年齢，性別，疾患や主な症状，心身の状況などを具体的に示す。
・患者を生活者として捉えて援助する視点を重視する。
②グループワークを取り入れ，多面的な思考力が養えるようにする。
③イメージしにくい内容については，DVD などの ICT 教材の活用を図り，具体的に考えさせる。
④他科目の学習内容との関連を図る。

【実習】看護技術を確実に習得する。

①ねらいを明確にして校内実習を行う。
・患者の状態を具体的に設定する。
・患者設定に応じた実習環境を準備し，基礎的技術の習得とともに応用力も身に付けさせる。
・看護師役，患者役，医師役など役割を分担し，ロールプレイング等により実践的な技術を習得できるようにする。
②看護技術の確実な習得を図る。
・自己評価表を用い，一人一人が技術の習得状況を確認できるようにする。
・技術チェックテストを実施する。
・放課後等を利用して反復練習する。
③他科目の学習内容と関連付ける。

取組例②

◇ 演習の充実を図り，実際の援助に活用できる力を育てる。

■看護の援助を計画的に実施し評価する看護活動の一連の過程を学習するにあたっては，エビデンスに基づき，個別性を考えた看護実践ができる力を育成することが必要です。

既習の知識と技術の統合化を図り，看護過程の学習に活用できるよう留意しましょう。

☆ 事例演習による看護過程の学習を充実する。

・臨床現場で遭遇しやすい基本的な疾患を取り上げる。
・情報収集とアセスメント・看護上の問題・看護計画の根拠の明確化及び深化等の視点を重視する。
・看護ケアに必要な身体の構造や機能，疾患について，ワークシート等を用いて，既習の知識・技術の活用を図る。
・グループ演習も取り入れ，思考力を深める。
・文献検索を取り入れ看護研究につなげる。

(16)　福祉
～実際的・体験的な授業づくり～

授業改善のポイント

○ 社会福祉に対する興味・関心を高めるために主体的な学習の機会を多くする。 取組例①
○ 地域の社会福祉協議会や関係施設等と連携し，介護体験や介護実習を充実する。 取組例②

取組例①

◇ 生徒一人一人が主体的に考えることができる学習活動を工夫する。

例１ ワークショップの手法を取り入れる。

①アセスメントに必要な情報を収集するために，提示した事例から気付く情報を，付箋に書き出す。
②フェースシートや本人及び介護者の情報，援助状況等のアセスメント項目に基づいて分類する。
③利用者の情報を共有し，ニーズを把握する。（実物投影機で拡大表示する等）
④必要な援助を考える。

例２ 介護計画の失敗例から学ぶ。

①利用者についてのアセスメントを行い，介護計画の目標を確認する。
②適切でない介護計画の例を提示し，既習の介護計画作成の知識を基に，介護計画の課題を考えさせる。その際，なぜそのように判断したのかも考えさせるようにする。
③介護計画を見直す際の視点を示す。
④よりよい介護計画の作成と実践につながるよう，提示された介護計画の改善例を考え発表しあう。
⑤学習形態（ペア・グループ等）を工夫する。

取組例②

◇ 介護を必要とする人との交流や介護体験及び介護実習を充実する。

介護演習などの学習機会を通して，専門的な知識と技術の深化・統合化を図ると効果的です。

■　介護福祉士養成にかかわる課程では，介護実習の事前・事後指導を通して，主体的に実習に臨む態度を身に付けさせ，自己の課題を明確化する。また，介護従事者としての意識付けを図る効果的な指導を行い，介護実習が適切に行われるよう留意する。

☆ 交流や介護体験の例

・福祉ボランティア活動に参加する。
・近隣の特別支援学校や社会福祉施設を訪問するなど，交流の機会をもつ。
・文化祭等に施設利用者を招待し，移動や食事等の介助をする。
・地域の社会福祉協議会と連携して，社会福祉関係の地域のイベントに協力する。
・一人暮らしの高齢者宅を訪問する。
・課題研究発表会等に関係施設の指導者を招待し，意見をいただく。

☆ 社会福祉実習等の結果を発表する。

ねらい
・事例研究等の発表を通して，自分の介護計画を評価し，今後の課題を明確にする。また，プレゼンテーション力を身に付ける。

期待される効果
・学級内で発表することで，級友のまとめが視聴でき，相互に学習内容が深まる。
・後輩等の前で発表することにより，次の学年への伝達や意識付けにつながる。
・保護者や実習指導者を招いて発表することにより，自信が生まれ，専門職への意欲につながる。

(17)　総合的な学習の時間
～身近な教材から，生徒の思考や認識を深める授業づくり～

授業改善のポイント

○　生徒の学習活動が豊かに広がり発展していく，実生活を素材とした単元をつくる。　取組例①

○　総合的な学習の時間と教科等との双方向の関連を意識する。　取組例②

取組例①

◇ 実生活の中にある素材を教材化することによって，生徒がその素材を通して，広い視野や異なる角度で物事を見たり，捉えたり，考えたりする力をはぐくむ。

【学習課題例】 ～防災～「近い将来発生するであろう南海地震について調べ，対策を考えよう！」

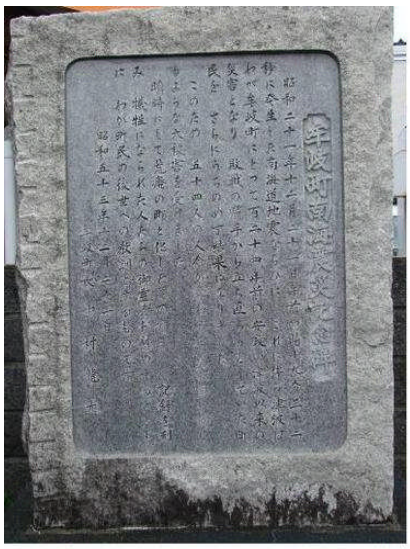
南海地震が３０年以内に発生する確率は，平成２２年１月に６０％程度に引き上げられ，いよいよ危機が差し迫ってきたと言える。自分の命に直接かかわる問題であるだけに，生徒にとっても身近なテーマである。「防災＝避難訓練」といった単純な発想ではなく，「命を守る，人との関わりから学ぶ」具体的な学習活動や事象とのかかわりを通して，多様な視点から防災についての理解を深め，人や社会，自然とのかかわりに目を向けさせ，地域社会に参画し貢献しようとする意識を高めたい。

【防災をテーマとした単元づくり（例）】・・・学習活動例

１　地震を科学する

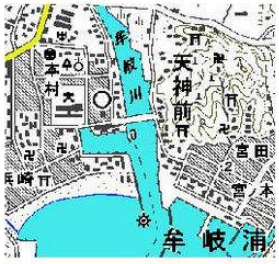
徳島県や日本で過去に起こった地震，今後発生が予想される大地震の種類や地震発生のメカニズム，被害について調べよう。

- **探究学習**
  （図書室で参考図書を調べる，過去の新聞で調べる，インターネットによる検索など）
- **専門的な研究施設での学習**
  （徳島県立防災センター，徳島大学環境防災研究センター，人と防災未来センターなど）
- **被災体験者の講話**
  （昭和南海地震や阪神・淡路大震災の体験者から，被災体験を聞く）
- **フィールドワーク**
  （徳島県の地震・津波碑巡りや活断層三好市三野町太刀野の中央構造線露頭の見学など）



牟岐町南海震災記念碑

安政・昭和南海地震碑と潮位石柱



（ http://anshin.pref.tokushima.jp/normal/disaster_center/index.html　参照）

太刀野の中央構造線露頭（県天然記念物）

2 身の回りの防災～地震に備えて～

・阪神・淡路大震災を素材にしたワークショップ
（Ａ３用紙の中央に「阪神・淡路大震災」と書き，まわりに「ボランティア」「建物倒壊」「火災」など各自が思いつく項目を書き並べ，ＫＪ法で分類し，課題，問題点，改善策などを話し合い，震災の教訓を再整理する。）

（土木構造物の損壊）

（仮設住宅の設置）

（出典：いずれも神戸市ＨＰ）

・地域との合同防災訓練
・災害対応シミュレーション
（地震発生直後から１０分後，１時間後，１日後，１週間後というように時間を設定し，自分がどこにいてどんな行動をとるべきかを，時系列に考える。）
・学校・地域の防災マップの作成
（地図を持って地域を回り，避難箇所や消火栓，危険箇所などをチェックし，写真を撮って，地図の上に貼り，分かりやすい防災マップを作成する。）
・あなたの家は大丈夫～わが家の地震対策～
（自分の家の見取り図を描いて，耐震対策の状況，家具の転倒防止や避難箇所の確認，非常持ち出し品の確認，家族との連絡方法などを点検し，家庭生活を防災の視点で見直す。）
・震災時における負傷者の救助活動体験
（応急担架を使っての運搬，三角巾を用いての応急処置などの実践を体験する。）
・非常食づくり
（避難所のテントを設営し，震災時の食料確保のための炊き出しを行う。）
・災害ボランティア活動の調査・体験
（震災時に自分ができるボランティア活動について考え，実際に模擬体験する。）

3　研究成果の発信

・ポスターセッションやディベート
（学習したことをポスターにまとめ発表したり，ディベートを行う。）
・近隣小学校への出前講義
（近隣の小学校に出向き，作成したポスターやスライドを使って，小学生に教える。）
・地域の防災資料作成
・防災のまちづくり提言
（理想の防災まちづくりを提案し，発表する。）

取組例②

◇ 総合的な学習の時間での，課題を見付け，情報を収集し，整理・分析，まとめ・表現を行う各学習過程において，各教科・科目及び特別活動で身に付けた知識や技能等との関連を図る。

【各教科等との関連性について考える視点】
1　単元毎に教科等との関連を明確にする。
2　「育てようとする資質や能力及び態度」の分析から教科等との関連を明確にする。
3　指導計画に反映させ，各教科担任との共通理解を図る。

【各教科等との関連例】

各教科等	関連指導内容
理科 「地学」	○地球の外観 地震波の伝わり方と地球内部の構造 ○地球の活動と歴史 プレートテクトニクス，地震と地殻変動，地層の観察 ○液状化現象のモデル実験，津波のモデル実験，地震動の増幅のモデル実験
理科 「物理」	○波 波の伝わり方
地理歴史科 「地理Ａ」	○生活圏の諸課題の地理的考察 自然環境と防災
公民科 「倫理」	○現代に生きる人間の倫理 人間の尊厳と生命への畏敬，自然や科学技術と人間とのかかわり
保健体育科 「保健」	○現代社会と健康 精神の健康，応急手当
家庭科 「家庭基礎」 「家庭総合」 「生活ﾃﾞｻﾞｲﾝ」	○人の一生と家族・家庭及び福祉 共生社会と福祉，高齢期の生活（介護） ○生活の自立及び消費と環境 食事と健康 ○住生活の設計と創造 家族の生活と住居，住居と住環境，住生活のデザインと実践
情報科 「社会と情報」	○情報の活用と表現 情報の表現と伝達
特別活動 「ﾎｰﾑﾙｰﾑ活動」 「生徒会活動」	○適応と成長及び健康安全 ボランティア活動の意義の理解と参画，生命の尊重と安全な生活態度 ○ボランティア活動などの社会参画，異年齢集団による交流 ○健康安全・体育的行事 地域と連携した総合的な防災訓練を実施 ○勤労生産・奉仕的行事 ボランティア活動などの社会奉仕の精神を養う体験を培う活動の実施

(18)　特別活動
～主体的に学ぶ意欲をはぐくむホームルーム活動～

授業改善のポイント

○　「自分たちのホームルーム活動」という意識をはぐくみ，活動意欲をもたせる。　取組例

取組例

◇ 生徒の活動場面を工夫し，生徒が主役のホームルーム活動にしましょう。

【テーマ】「求人票の見方」

生徒が主体の運営方法を段階的に高めていき，生徒が自主的・自発的にホームルーム活動を行う自信をもたせ，学習活動や学校生活に意欲をもって取り組む基盤を養いましょう。

段階Ⅰ　号令から始め，本日のテーマを，生徒が発表する。

「今日は，『求人票の見方』について，研究します。準備はよろしいか。それでは，まず○○君、事前研究の発表をお願いします。」

※自分たちの活動である意識を醸成するために，進行は生徒が行う。

段階Ⅱ　テーマに関係する事前に研究してきた内容を担当生徒が，５分間発表する。

「私は，近くの企業の求人票を調べてきました。B農園に魅力を感じました。」

※実際の求人票を事前に渡して，生徒自身で研究させ，準備させる。

（準備するための素材を提供する）

企業	賃金	賃金形態	職種
A社	159,600 円	時間給	販売事務
B農園	160,000 円	月給制	技術職
C工業	170,000 円	日給月給	技能職

段階Ⅲ　担当生徒の発表を聞いて，感想や意見を出し合う。

「○○君の発表を聞いて，質問や感想、意見を出してください。」（司会）

「日給月給って何？」「B農園ってどこ？」「ボクも賃金は気になりますが，職種の方が気になりました。どんな仕事内容ですか。？」

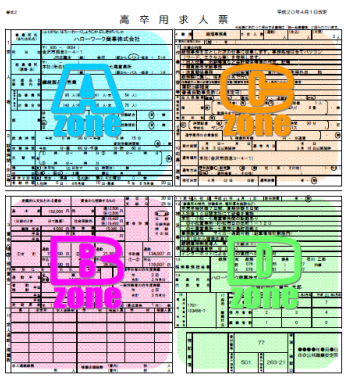
※発表に対する応える時間を必ずとる。生徒の声が少なければ，教師も感想を言う。

段階Ⅳ　テーマに沿った展開。

①「求人票に書かれている各項目でわかりにくい項目を説明します。説明がよくわからなければ質問してください。」

求人票のゾーンごとの記載内容を生徒が解説する。

質問で生徒がよく分からないところは教師が解説する。



②「求人票の項目で自分が注目したところはどこですか。グループの中で意見を出し合って，そのうちの１つを選んで，それが重要な理由を付けて発表してください。」

グループ（5 人程度）に分かれて活動する。

自分が特に注目する項目とその理由を付箋に書く。

グループで話し合って，項目の１つを選ぶ。

それが重要と考える理由を出し合い，グループの考えをまとめる。

代表が発表する。

③「発表を聞いて，共感できる意見はありましたか。」

発表を聞いての感想を聞く。

段階Ⅴ　生徒自身のまとめと先生からの講評

「今日のホームルーム活動で感じたことを自己評価表に記録してください。また，今回の運営で気付いたことがあれば言ってください。」

「最後に，先生，講評をお願いします。」

■　教師の言葉からホームルーム活動を始めない。教師からの話を聞くことが中心となる場合でも，司会・進行は生徒に任す，生徒の創意工夫を生かした導入を促す，展開は生徒同士の関わりを重視，最後に生徒自身で活動の評価をする，など生徒の活動の流れを作っていく工夫が必要である。

「学習意欲を高めるための授業改善例」編集委員

〔徳島県立総合教育センター〕

学校経営支援課長　松下　悦子
班　長　寺奥　敦子
班　長　山村　啓治
指導主事　井内　久利
指導主事　寺澤　優
指導主事　永松　宜洋
指導主事　美馬　持仁
指導主事　渡邉　聡
指導主事　石丸　憲治
指導主事　瀧川　卓

教職員研修課長　西原　芳人
班　長　竹内　圭三
指導主事　結城　栄子
指導主事　小原　史明
指導主事　糸木　秀明
指導主事　宮本　千賀博
指導主事　小笠原　仁美
指導主事　臼井　公仁
指導主事　川上　教夫
指導主事　山下　和利

〔学校関係〕

城南高等学校　米澤　司子
富岡東高等学校羽ノ浦校　近藤　春江

〈編　集　後　記〉

「学習意欲を高めるための授業改善例」は，先生方が授業改善を進めるうえで，参考となるような事例を紹介しています。徳島県立総合教育センターのホームページに掲載しておりますので，各高等学校で活用してくださるようお願いいたします。

なお，今後，内容等の加筆修正については，御了承ください。

徳島県立総合教育センターホームページＵＲＬ　　http://www.tokushima-ec.ed.jp/